

平成 25 年度

市民アンケート実施結果

報 告 書

平成 25 年 9 月

鹿角市総務部政策企画課

目 次

I 実施概要	1
II 回収状況	2
III 調査の総括	
1. 共働について	4
2. 公共交通について	4
3. 市街地の整備について	4
4. 公園の環境について	5
5. 運動の実施状況について	5
6. 地域コミュニティについて	5
7. 男女共同参画の状況について	6
8. 地域医療について	6
9. 地域情報化について	7
10. 結婚支援について	7
11. 市の施策について	8
IV 設問別集計結果	
1. 共働について	10
2. 公共交通について	12
3. 市街地の整備について	16
4. 公園の環境について	18
5. 運動の実施状況について	20
6. 地域コミュニティについて	22
7. 男女共同参画の状況について	24
8. 地域医療について	26
9. 地域情報化について	32
10. 結婚支援について	38
11. 市の施策について	40
12. 自由意見	46

I 実施概要

1 実施目的

本市では、平成23年度から32年度を計画期間とする「第6次鹿角市総合計画（以下、「総合計画」と呼びます。）」において、市の将来のあるべき姿として、「笑顔がつながり活力を生むまち・鹿角」を将来都市像として定め、その実現を目指しています。この調査は、総合計画の推進を図るため、市が導入している行政評価制度の外部評価の一環として、総合計画を構成する各施策の進捗状況を成果指標として確認するほか、施策の効果とニーズ（需要）を調査・把握するとともに、市民の意識や意見等を集約し、今後の施策推進に活用することを目的としています。

2 設問構成

設問	設問の趣旨	担当課
1. あなた自身について	居住地区、性別、未婚、年代の確認	—
2. 共働について	共働の共感度の把握	市民共働課
3. 公共交通について	バス等に不便を感じる方の割合と不便の要因の把握	市民共働課
4. 市街地の整備について	中心市街地の生活環境に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
5. 公園の環境について	公園整備状況に対する満足度と不満要因の把握	都市整備課
6. 運動の実施状況について	運動や生活活動の頻度とその時間の把握	スポーツ振興課
7. 地域コミュニティについて	社会活動、地域活動への参加頻度の把握	市民共働課
8. 男女共同参画の状況について	ワーク・ライフ・バランスの認知度、地域内の共同参画状況の把握	市民共働課
9. 地域医療について	かかりつけ医を持っている割合、在宅当番医の利用割合の把握	健康推進課
10. 地域情報化について	インターネット利用状況の把握	総務課
11. 結婚支援について	結婚に対する支援として市民が求める支援策の調査	政策企画課
12. 市の政策について	①施策の効果が市民にどのように受け止められているかを調査し、施策の評価に活かす ②施策に対する市民ニーズを調査し、施策の優先度等の検討に活かす（5つのプロジェクト以外に特に市民ニーズが高いものを探る）	政策企画課
13. 自由記入	—	—

3 実施期間

平成25年5月30日（木）～6月14日（金）まで

4 実施対象

平成25年5月30日時点で住民基本台帳に登録されている方のうち、無作為によって抽出した満年齢18歳以上74歳以下の市民700人。

※上記700人の抽出にあたっては、性別、年齢及び地域条件を考慮し均衡を図ったほか、平成22年度から24年度までの市民アンケート、平成23年度「緑の分権改革」調査事業及び平成24年度鹿角市地域福祉計画策定に関するアンケート調査対象者を除いています。

5 実施方法

- (1) 配付 自治会長及び広報等配布員による配付（一部郵送）
- (2) 回収 職員による回収及び郵便（受取人払い）による回収

Ⅱ 回収状況

1 回収率

65.4% (458 人／700 人)

2 回答者の属性

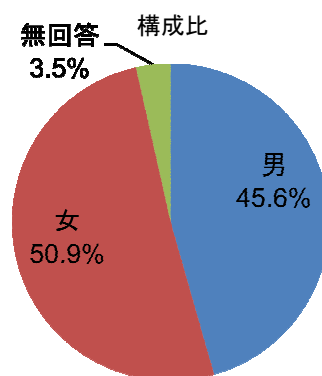
市民アンケートの属性別の対象者数、回答者数及び回収率は以下のとおりです。構成比（※1）は、その区分の対象者（回答者）が全対象者（回答者）のうち何%を占めているかを表しています。回収率（※2）は、その区分の対象者数のうち何%が回答を寄せたかを表しています。

※1 構成比 = その区分に属する対象者数（回答者数） ÷ 全対象者数（全回答者数）

※2 回収率 = その区分に属する回答者数 ÷ その区分に属する対象者数

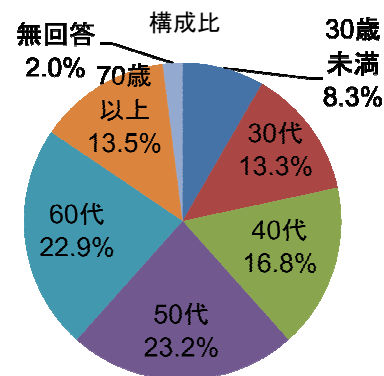
（1）男女別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
男	368	52.6%	209	45.6%	56.8%
女	332	47.4%	233	50.9%	70.2%
無回答			16	3.5%	
計	700	100.0%	458	100.0%	65.4%



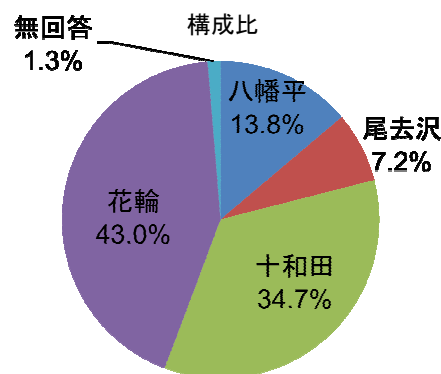
（2）年代別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
30歳未満	86	12.3%	38	8.3%	44.2%
30代	113	16.1%	61	13.3%	54.0%
40代	116	16.6%	77	16.8%	66.4%
50代	146	20.8%	106	23.2%	72.6%
60代	165	23.6%	105	22.9%	63.6%
70歳以上	74	10.6%	62	13.5%	83.8%
無回答			9	2.0%	
計	700	100.0%	458	100.0%	65.4%



（3）地区別

	対象者数		回答者数		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
八幡平	90	12.9%	63	13.8%	70.0%
尾去沢	60	8.6%	33	7.2%	55.0%
十和田	233	33.3%	159	34.7%	68.2%
花輪	317	45.3%	197	43.0%	62.1%
無回答			6	1.3%	
計	700	100.0%	458	100.0%	65.4%



※各設問における項目選択の割合（%）は、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

Ⅲ 調査の総括

[Redacted text block]

Ⅲ 調査の総括

1. 共動について

共動共感度	77.7%	⇒詳細 P10
--------------	--------------	---------

「共動」については、地域づくり協議会等による市民センターの運営や共動パートナー制度の運用、自治会活動への支援、また、各種事業の企画運営のために市民ワークショップを開催し、市民の意見を十分反映する仕組みづくりなどを進めてきています。

このような様々な取り組みを進めてきた結果、「共動」が市民の間に十分浸透していると考えられ、今後も、引き続き「共動」の取り組みの充実を進めていきます。

2. 公共交通について

公共交通に不便を感じる市民の割合	24.9%	⇒詳細 P12
-------------------------	--------------	---------

公共交通機関の移動に「不便を感じる」と回答した割合は 24.9%と、前年度の 33.7%と比較して少なくなりましたが、目標値には届かない状況です。

普段の移動に、約 9 割の人が自家用車を利用しながら、かつ多くの人が公共交通に「不便を感じる」と回答している理由として、中・高生の家族の学校への送迎が必要となっている実態や、便利であれば公共交通も利用したいという潜在ニーズが表れていると考えられます。

本数増や運賃減、新ルートによる運行など要望は多様であり、今後は高齢化の進展を視野に入れながら、より便利なバス路線・公共交通全体を再検討し、公共交通の満足度を高められるような施策を講じていく必要があります。

3. 市街地の整備について

中心市街地の環境に満足している市民の割合	50.4%	⇒詳細 P16
-----------------------------	--------------	---------

市では、まちづくりビジョンに基づき、ＪＲ鹿角花輪駅と新町・大町等の商店街周辺を核とする中心市街地の再生のための整備を進めており、文化の杜交流館コモッセの建設をはじめ、花輪駅西住宅の整備に取り組んでいるほか、花輪駅前整備の検討を進めるなど、まちなかのにぎわい創出と活性化を目指しています。

アンケートでは、花輪市街地について 50.4%が概ね満足と回答していますが、各地域のバランスに配慮しつつ、居住環境の向上に寄与する道路網の整備やアクセスの改善、にぎわい創出による地域経済の活性化に取り組み、安心して住み続けられる住民ニーズにあった魅力ある街づくりが必要と考えます。

4. 公園の環境について

公園の環境に満足している市民の割合	59.8%	⇒詳細 P18
--------------------------	--------------	---------

平成 22 年度に策定した公園施設長寿命化計画に基づき、老朽化した遊具等の更新を計画的に進めており、満足度が昨年より微増しています。

公園内の管理については、地元自治会や老人クラブへ委託しており、概ね管理は行き届いていると考えておりますが、定期的な点検により状況把握を行い、適正な管理に努めます。

今後も誰もが利用しやすい公園となるよう、各公園の景観や機能を生かした魅力ある公園づくりを進めてまいります。

5. 運動の実施状況について

週 1 回以上の頻度で運動する市民の割合	52.2%	⇒詳細 P20
-----------------------------	--------------	---------

運動やスポーツに取り組もうとする意識は、余暇の過ごし方の多様化からか、なかなか進まない状況にありましたが、日常的なスポーツ活動を促すためのきっかけづくりとして、生活活動動作が健康づくりと密接な係わりがある、との意識を醸成することで実施率が伸びています。

40 歳代の働き盛りの世代の実施率が、30%台と低い状況にありますが、日常生活における生活活動動作も、運動を意識して行うことで健康づくりにつながることを継続的に広報し、軽運動の習慣化につなげることで、スポーツへのきっかけづくりを充実させる必要があります。

6. 地域コミュニティについて

社会活動・地域活動の参加割合	64.0%	⇒詳細 P22
-----------------------	--------------	---------

昨年 1 年間に社会活動や地域活動へ参加した割合は、64.0%と基準値である 46.8%（秋田県県民意識調査）を引き続き大きく上回り昨年よりも上昇しており、地域コミュニティへの参加は進んでいると思われます。

若年層の参加率は平均値より低い状況にありますが、地域コミュニティの維持を図るためには若年層の参加が不可欠なことから、参加率向上につながる啓発活動の取り組みについて、積極的に行う必要があります。

7. 男女共同参画の状況について

ワーク・ライフ・バランス認知度	24.9%	⇒詳細 P24
------------------------	--------------	---------

「ワーク・ライフ・バランス」の認知度については、24.9%となっており、昨年度とほぼ同じ状況です。

しかし、依然としてこの言葉を知らない割合が7割を超えているため、認知度を高めていく必要があります。

また、男女の地位の平等感については、67.9%が「男性が優遇されている」、「どちらかといえば男性が優遇されている」と答えており、依然として男性の方が優遇されていると感じている人が多いのが現状です。

このため、あらゆる機会を通じて、性別にかかわらず個性や能力を発揮できる社会を作っていけるよう、啓発や学習の機会の提供に取り組んで行く必要があります。

8. 地域医療について

かかりつけ医を持っている市民の割合	60.5%	⇒詳細 P26
--------------------------	--------------	---------

地域医療の充実は、市民の「安心」「安全」に直接結びつく最も重要な課題であり、そのための医療体制の構築については、医療機関だけに頼るのではなく、市の医師確保対策とあわせ市民の方が「かかりつけ医」を持つことによる一次医療体制の確立など、市民と行政が一体となって取り組んでいかなければなりません。

今回のアンケートでは、新たに過去一年間における医療機関の利用状況を調査しましたが、結果は82.3%と、あらためて多くの方が医療機関を利用していることを確認しています。

また、そのうえで昨年に引き続き、地域で限られた医療機関をいかに有効に活用して適正な受診をしているかの調査を行いました。かかりつけ医については前年比 11 ポイントの増となりました。これについては医療機関利用者を対象としたこともあります。かかりつけ医への意識づけと救急医療知識の普及啓蒙を目的とした冊子を作成配布したことによるものと考えられます。

在宅当番医については、利用する機会がないという意見のほか、当番医が分からないなど診療体制や対応に係る意見がありました。このことから、制度そのものの周知を継続的に実施するとともに、一人でも多くの方が満足できる受診環境となるよう関係機関と協議を進めていく必要があります。

9. 地域情報化について

インターネットを利用している市民の割合

50.4%

⇒詳細 P32

インターネット人口普及率（インターネットを利用していると回答した割合）は50.4%となりました。この普及率について50歳を境に年代を区切って見ると、40代以下は約83%、50代以上は約29%となり、インターネットの利用状況に大きな違いがあることが表れています。

若い年代では、スマートフォンの普及が急速に進んでいることがうかがえます。こうした利用機器の高性能化に加え、近年のSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の普及拡大は、手軽で場所を選ばないコミュニケーションを容易にしているため、若年層のインターネット利用者の増加につながっており、将来的にもインターネット普及率が高まっていくことが推測されます。

しかし一方では、高齢者を中心としてインターネットを利用していない方の多くは、利用の必要性がないと考えている状況もうかがわれます。

インターネット利用の目的としては情報収集が最も高いことから、市としては、引き続き情報処理システムの構築と正確で迅速な情報発信に努めるとともに、インターネットを利用しやすい環境づくりと情報伝達媒体の多様性の確保を図ります。

10. 結婚支援について

⇒詳細 P38

少子化の大きな要因の一つとして、未婚率や初婚年齢の上昇といった未婚化・晩婚化の進行が指摘されており、本市においてもその対策が求められています。

結婚を支援するために、一般論としてどのような支援が必要か尋ねたところ、「雇用形態や就業環境の改善」「出産や子育てに対する支援」「仕事と家庭（育児）が両立できる環境づくり」が高い数値を示しており、家庭を築き子どもを育てやすい環境づくりを求めていることがうかがえます。

続いて、「出会いを目的とした交流イベント等」や「お見合いなどの仲介」を選択する回答者が多く、地域や職場で出会いの機会が少なくなっている状況がうかがえます。また、「結婚に対する意識改革」を選択する方も多く、雇用や経済的な不安を抱きながらも結婚の重要性を認識しているものと考えられます。

市が行うべき支援策についても同様の結果となりました。環境づくりについては、産業振興策や子育て支援策をいっそう進める一方、結婚を望む男女が結婚を前向きに捉えられるよう意識啓発を進めながら、出会い・結婚につながる施策を充実させ、社会全体で支援する体制づくりを推進します。

1 1. 市の施策について

- ・市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるもの
- ・市が進めている取り組みの中で、もっと力を入れて欲しいと感じるもの

⇒詳細 P40

効果が得られていると感じられるものとして高い評価を得た施策は、順に「高齢者福祉の充実」「子育て支援の充実」「健康づくりの充実」「観光の振興」「スポーツ環境の充実」「農業生産の振興」となり、市がこれまで取り組みを強化してきた施策が評価されています。

また、もっと力を入れて欲しいと感じる施策については、順に「雇用環境の充実」「地域医療体制の充実」「観光の振興」「子育て支援の充実」「学校教育の充実」という結果となり、経済情勢と医療環境の厳しい状況が現れています。「観光の振興」についてはさらなる可能性への期待、「子育て支援の充実」については結婚問題を含めた少子化への強い危機感のあらわれと受け止めています。

【 効果が得られていると感じるもの 】

	H 2 4	H 2 3
第 1 位	高齢者福祉の充実	高齢者福祉の充実
第 2 位	子育て支援の充実	子育て支援の充実
第 3 位	健康づくりの推進	健康づくりの推進
第 4 位	観光の振興	スポーツ環境の充実
第 5 位	スポーツ環境の充実 農業生産の振興	観光の振興

【 もっと力を入れて欲しいと感じるもの 】

	H 2 4	H 2 3
第 1 位	雇用環境の充実	雇用環境の充実
第 2 位	地域医療体制の充実	地域医療体制の充実
第 3 位	観光の振興	商店街の活性化
第 4 位	子育て支援の充実	高齢者福祉の充実
第 5 位	学校教育の充実	観光の振興

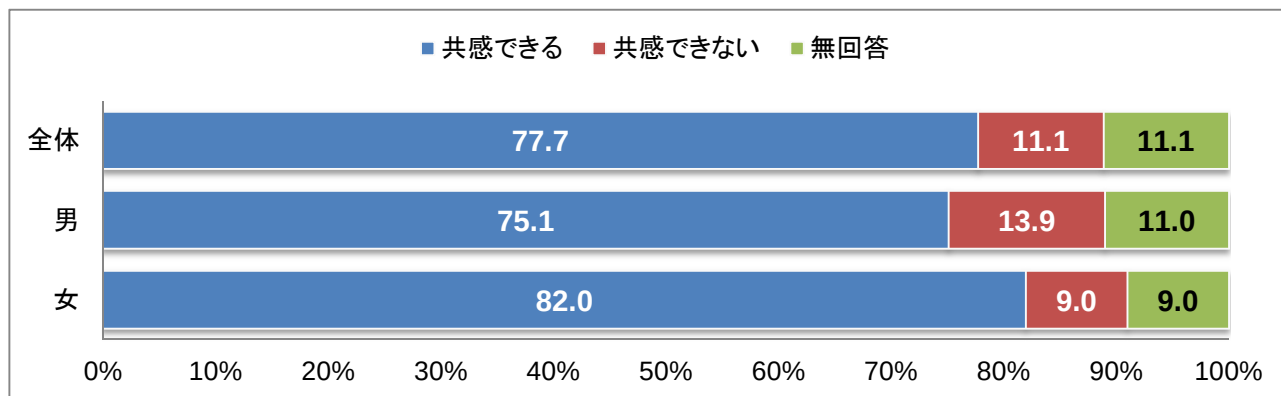
IV 設問別集計結果

1 共動について

設問② 市が提唱している共動について、あなたは共感できますか。

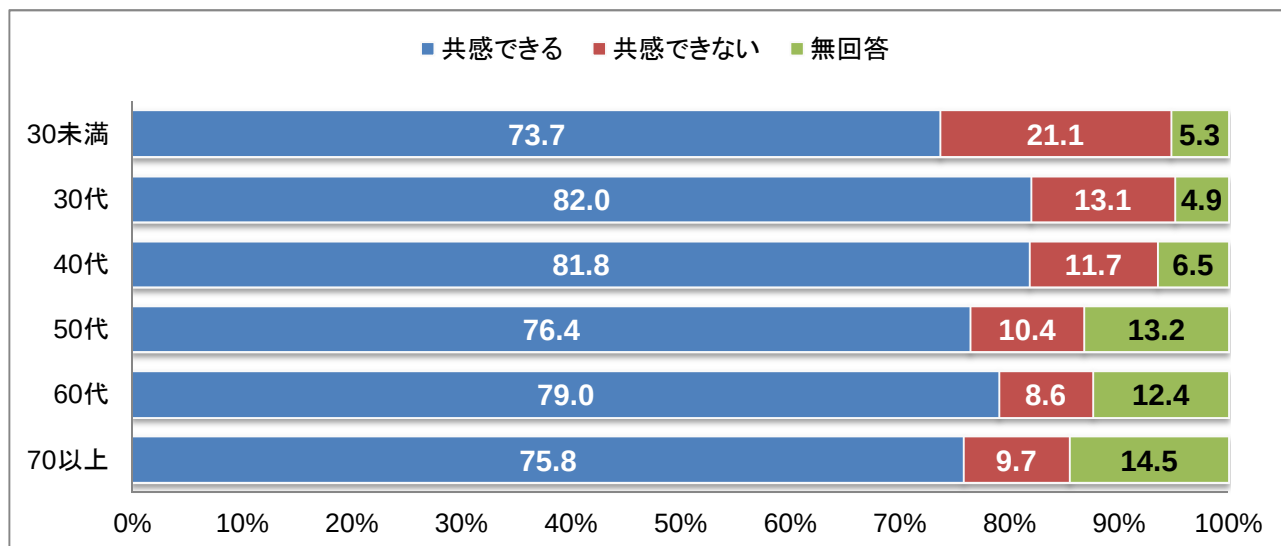
①全体／男女別

〔単位：％〕



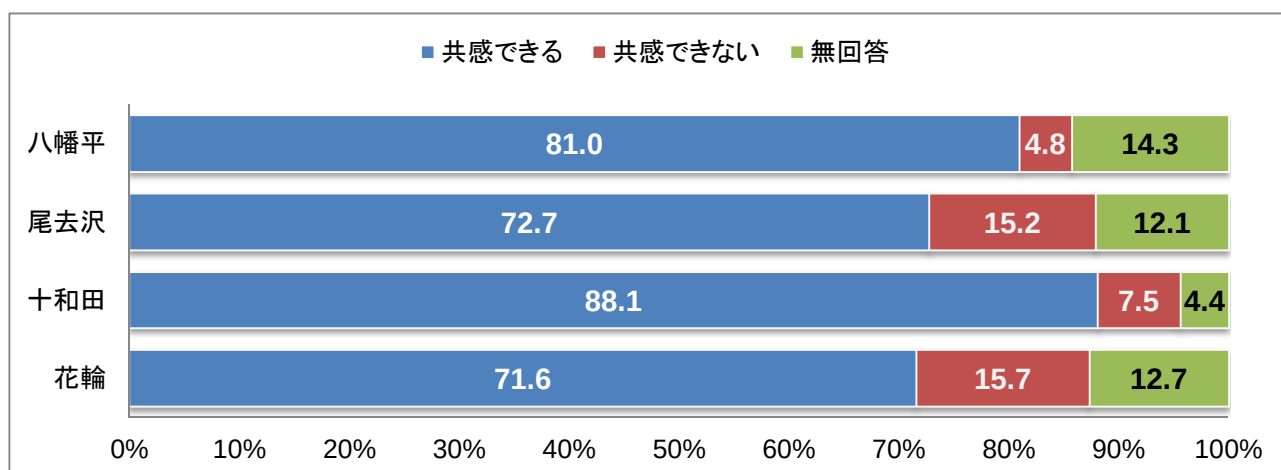
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

共働に共感できるかどうかについては、77.7%が共感できるとしており、昨年度の69.2%、一昨年の70.3%を大きく上回っており、着実に理解されていることが分かります。

共感できないとした割合は11.1%と、昨年度の11.2%とほぼ同じ割合となっています。共感できない理由として、「共働の考えは理想であり、具体的な形が見えない」といった意見がみられ、より広く共働の取り組みの周知が求められます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

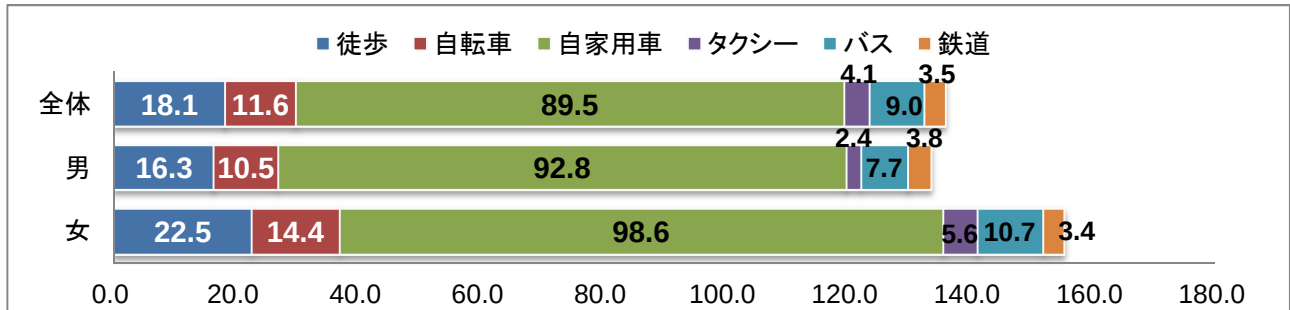
成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
共働共感度	66.7%	77.7%	70.0%

2 公共交通について

設問③-1 普段、移動手段に何を利用していますか（複数回答可）。

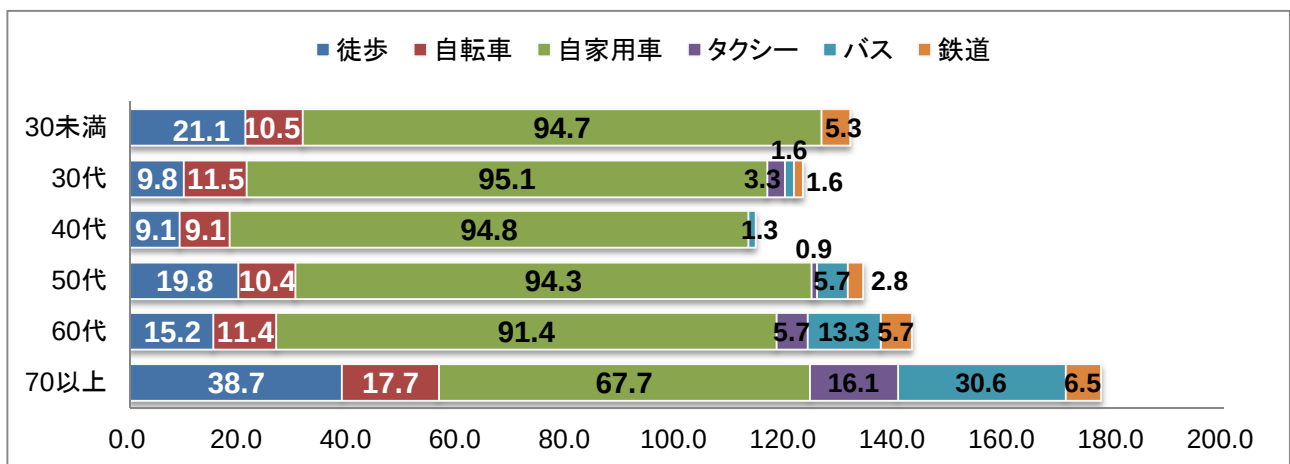
①全体／男女別

〔単位：％〕



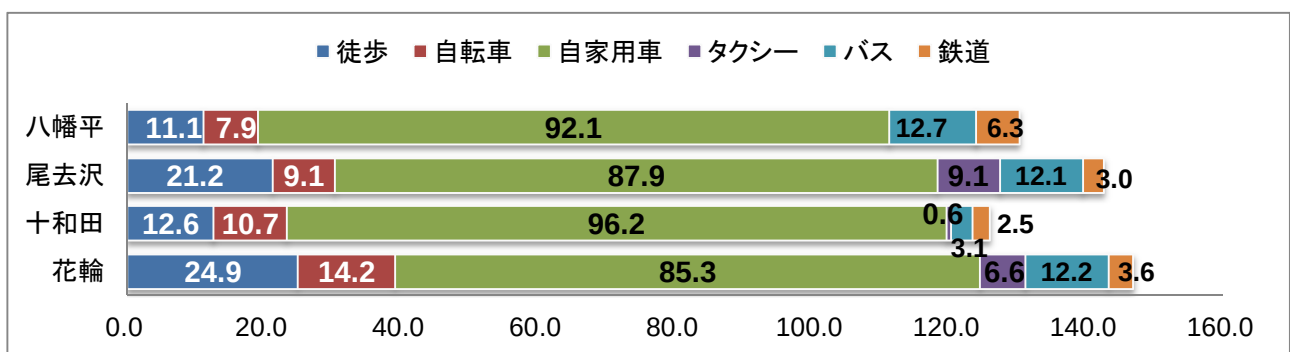
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

普段の移動手段としては、自家用車を挙げた人の割合が 89.5%と高く、70代でも 67.7%の人が自家用車を使用するとしています。

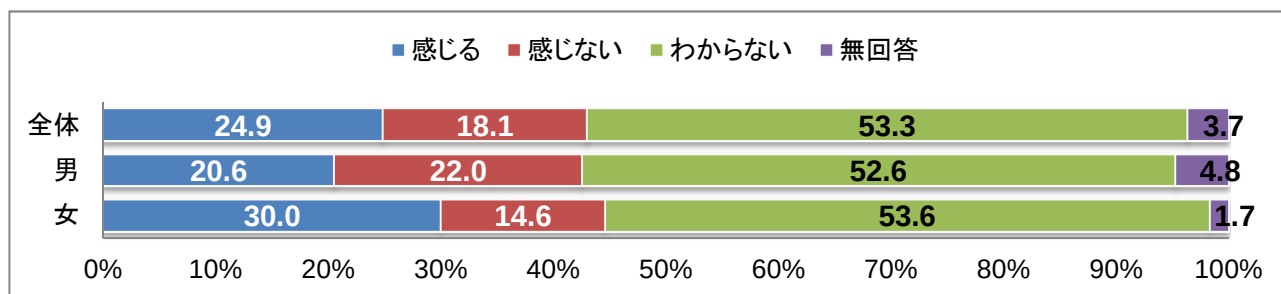
バスを利用すると答えた割合は 9.0%にとどまっており、70代では 30.6%の人が利用するとしているものの、40代以前の若い世代ではほとんど利用していない状況となっています。

地区別にみると、十和田地区においてバスを利用すると答えた割合が低く、八幡平地区においては鉄道を利用する割合がやや高い傾向があります。

設問③-2 あなたは、普段の生活の中で、バスや鉄道などの公共交通機関による移動に不便を感じていますか。

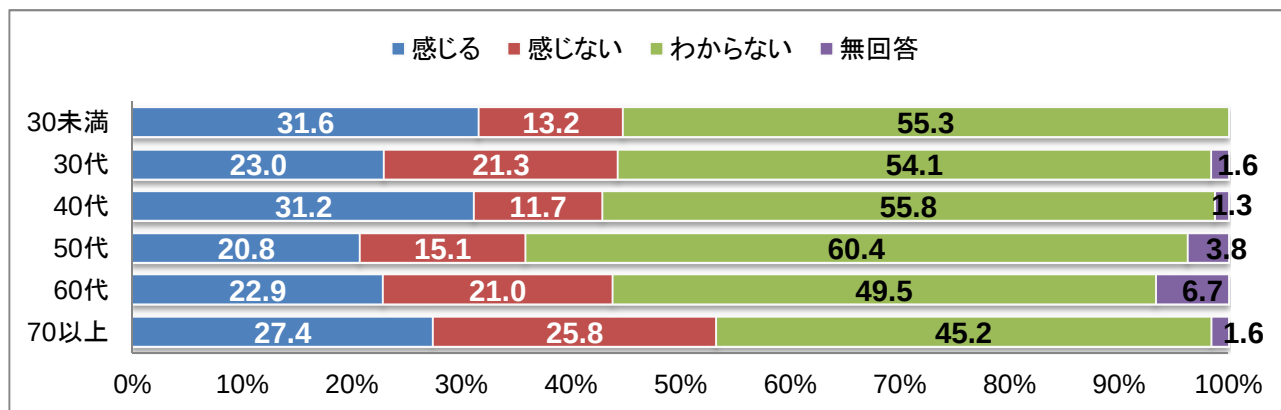
①全体／男女別

[単位：％]



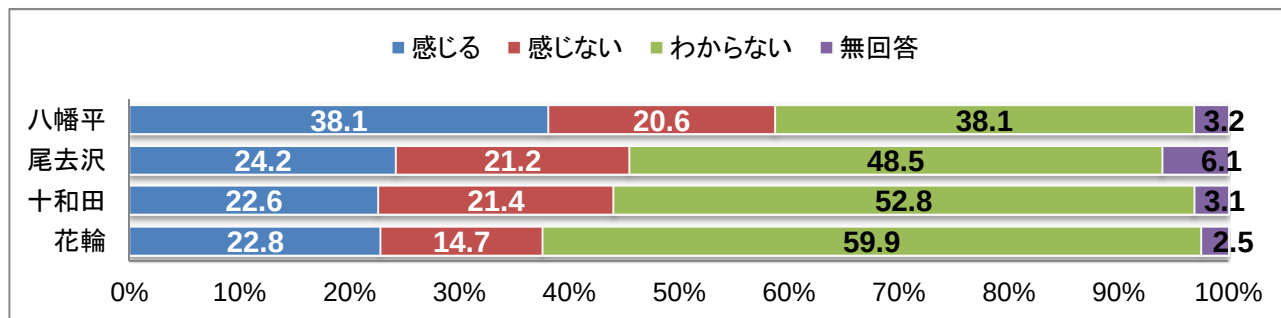
②年齢別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

公共交通機関の移動に「不便を感じる」割合は、前年度より 8.8 ポイント減少の 24.9%となり、市街地循環バスの定着などにより利便性が確保されたものと考えられます。「不便を感じない」とした割合は 18.1%となっています。

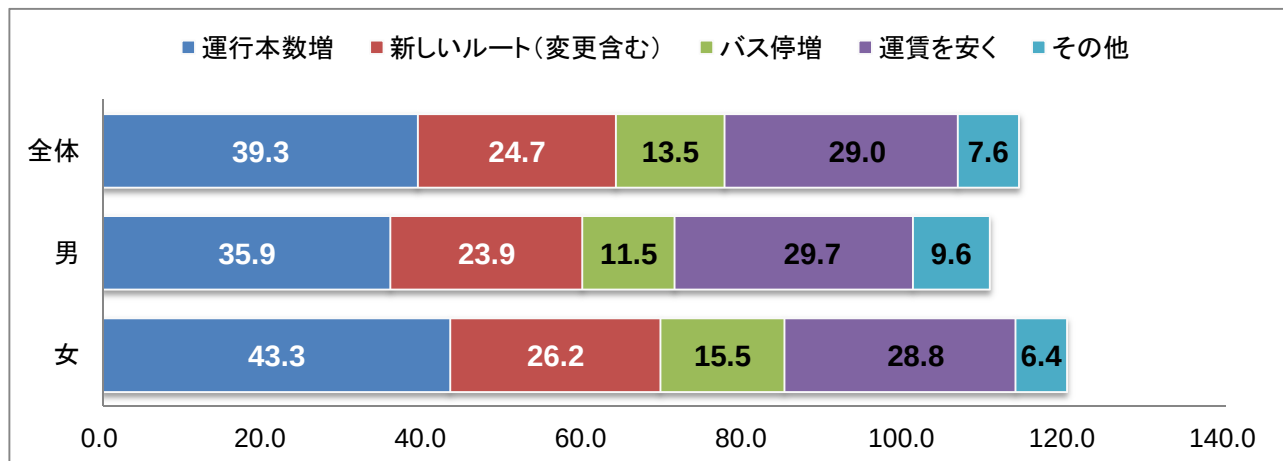
「わからない」の回答が 5 割を超えており、この中には普段公共交通を利用しない人が多く含まれていると考えられます。

地区別にみると、「不便を感じる」割合が八幡平で 38.1%と高く、「感じない」割合としては花輪地区で 14.7%と低い傾向となっています。

設問③-3 バスをもっと利用しやすくするため、改善してほしいのはどれですか？（複数回答可）

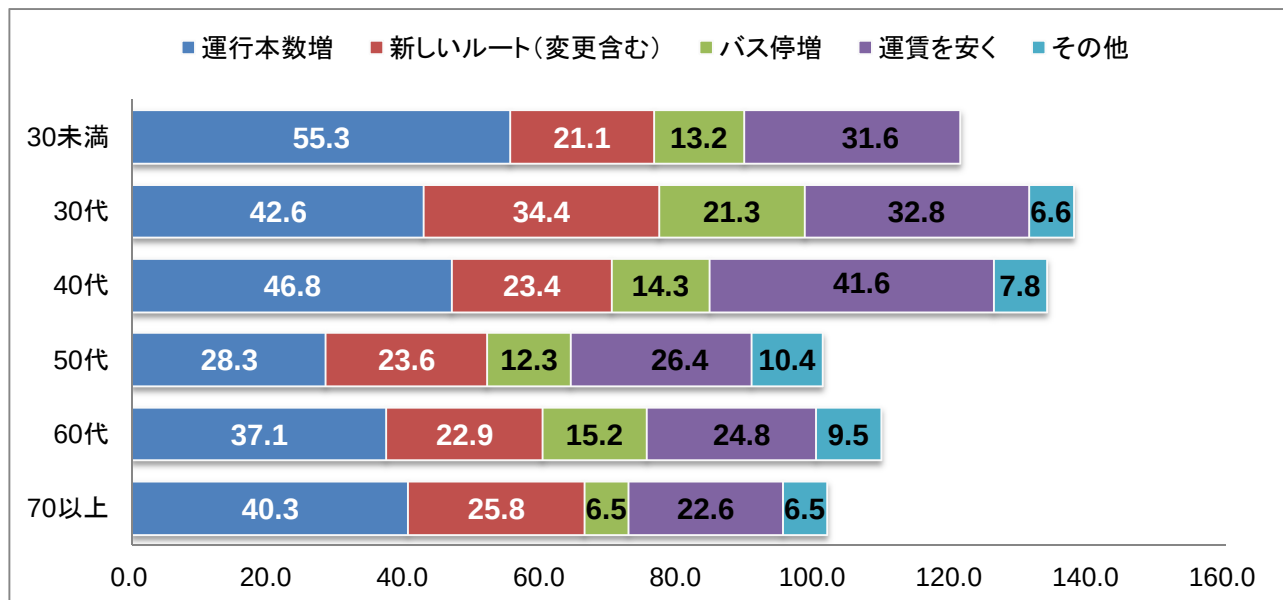
①全体／男女別

〔単位：％〕



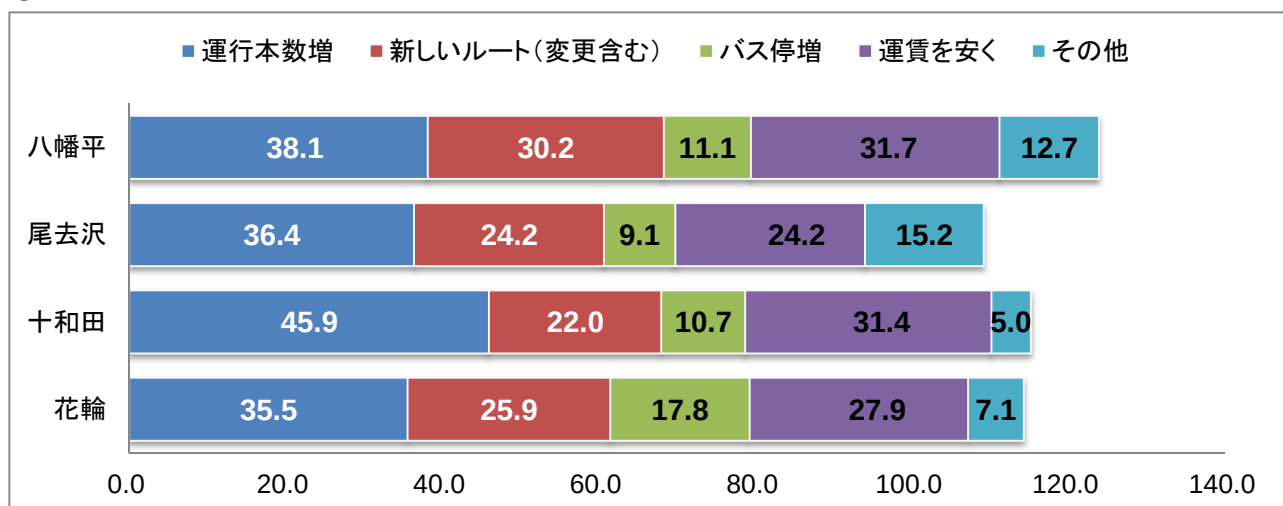
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

利用しやすくするために改善してほしいものとしては、運行本数増が 39.3%、次いで運賃減が 29.0%などとなっており、特に 40 代以前の若い世代でこれらの要望が大きくなっています。

バスを利用する割合が比較的高い 70 代においても、本数増への要望が 40.3%と最も高くなっています。

地区別にみると、本数増への要望は十和田地区で特に多く、運賃減については、市街地まで距離がある八幡平地区及び十和田地区で、また、新ルートについては八幡平地区において多い傾向となっています。

その他改善してほしい内容として、バスの小型化に関わる要望が多く挙げられており、無駄を省いた効率的、機能的な運行を望む声として捉えています。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

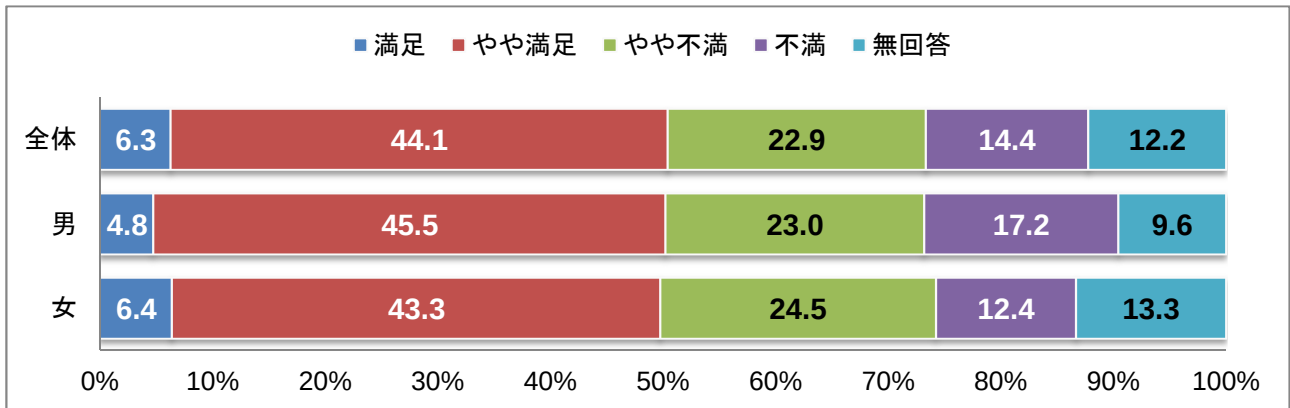
成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
公共交通に不便を感じる市民の割合	24.6%	24.9%	19.5%

3 市街地の整備について

設問④ あなたは、花輪市街地の生活環境（住みごごちだけでなく、交通の便や公共施設の配置など中心地としてのまちの便利さ）に満足していますか。

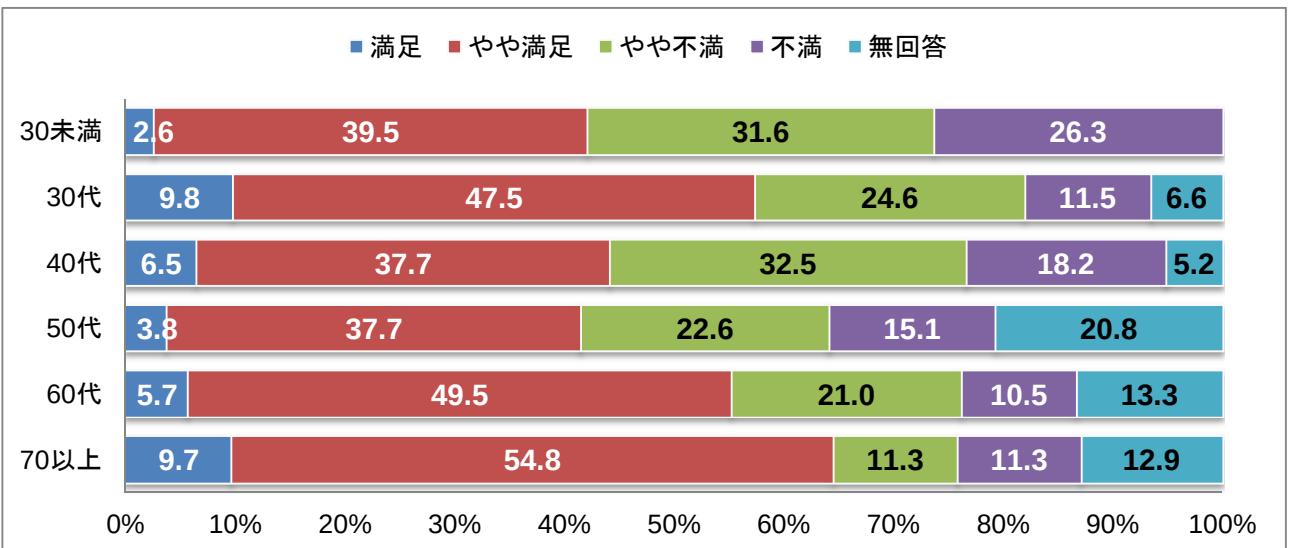
①全体／男女別

〔単位：％〕



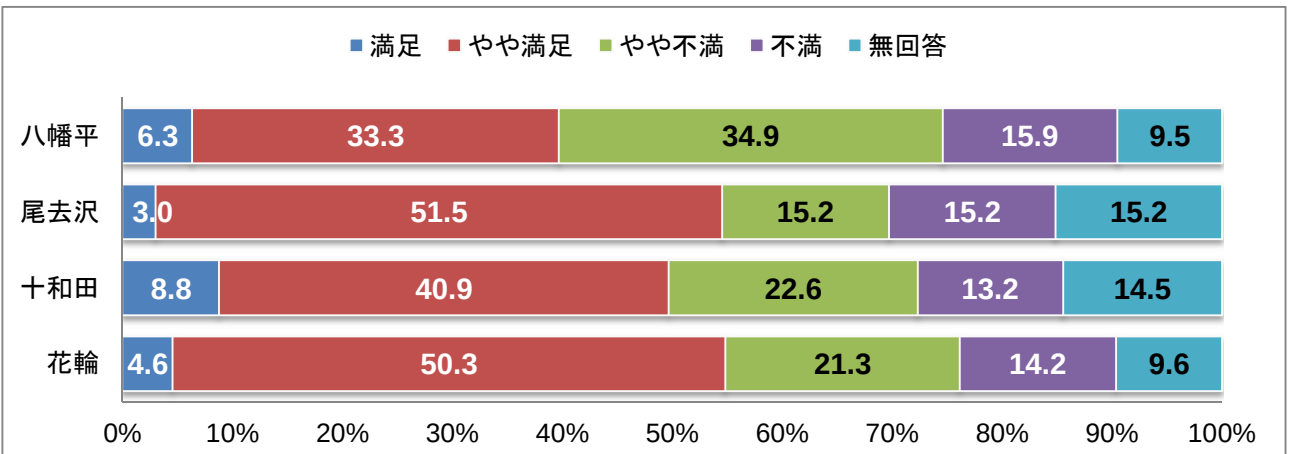
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

調査の結果、花輪市街地の「満足」、「やや満足」とする満足度は半数の 50.4%となりましたが、一方で、中心市街地の公共施設が分散しており、一カ所で用事が足せない不便さや駐車場が少ないことを挙げる声、また大型店舗や娯楽施設を望む声が多く、中心市街地に対する市民の期待が実態にあわないとする意見が出されており、「不満」、「やや不満」が 37.3%になっています。

年代別でみると、30 歳未満や 40 代、50 代の満足度は 40%台と低くなっており、家族連れや若者向けの娯楽施設の充実を望む声が多くあります。

地区別にみると、八幡平地区の満足度が 39.6%と低い結果となりました。

市街の活性化を図るには、空き店舗等への対策や、観光分野との連携など多面的に検討する必要があります。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

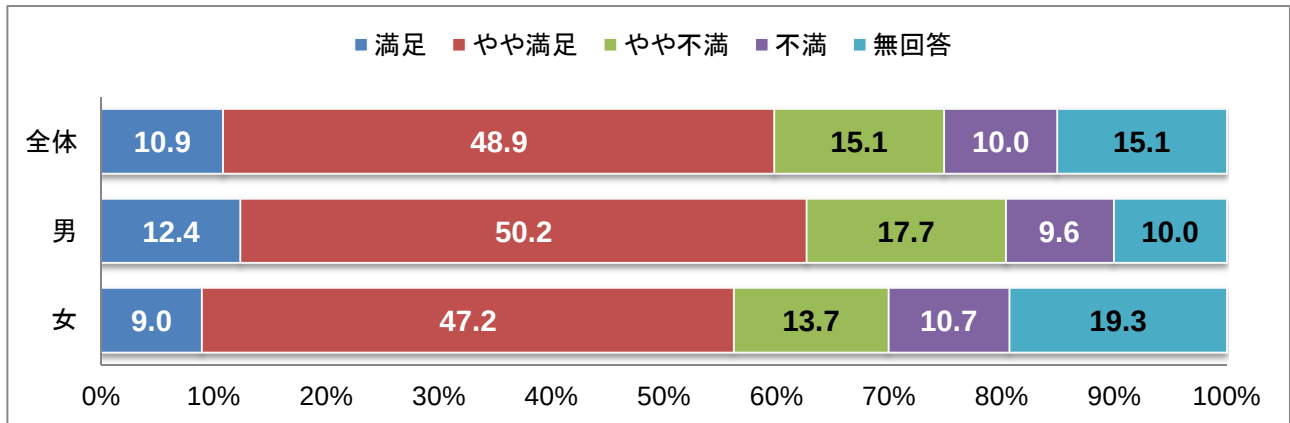
成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
中心市街地の環境に満足している 市民の割合	20.2%	50.4%	55.0%

4 公園の環境について

設問⑤ あなたは、市内の公園の整備状況に満足していますか。

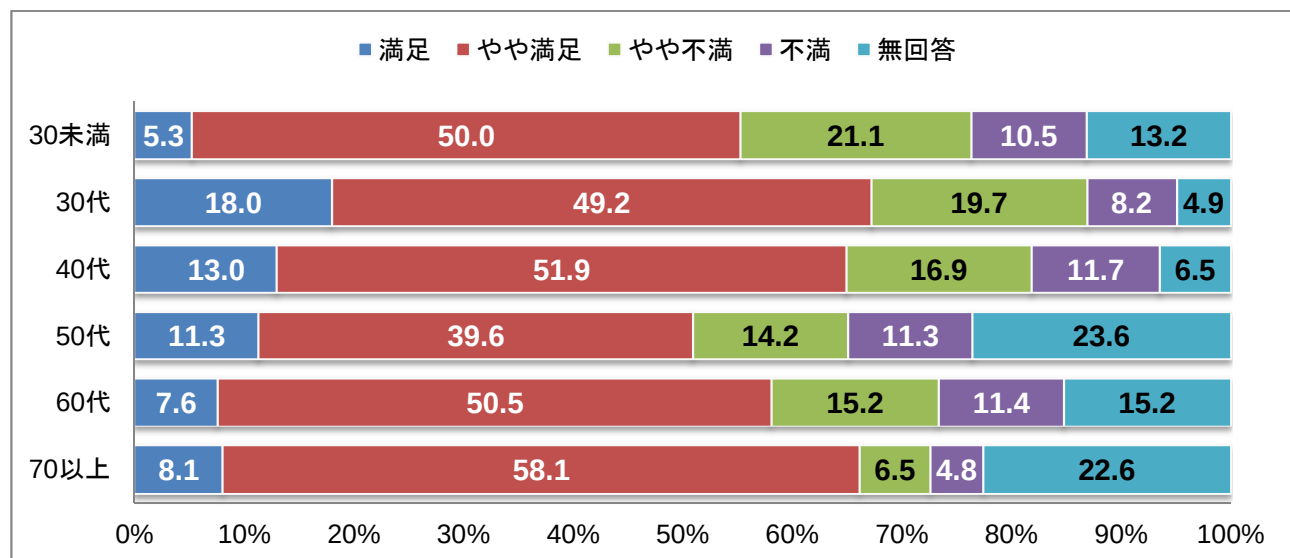
①全体／男女別

[単位：％]



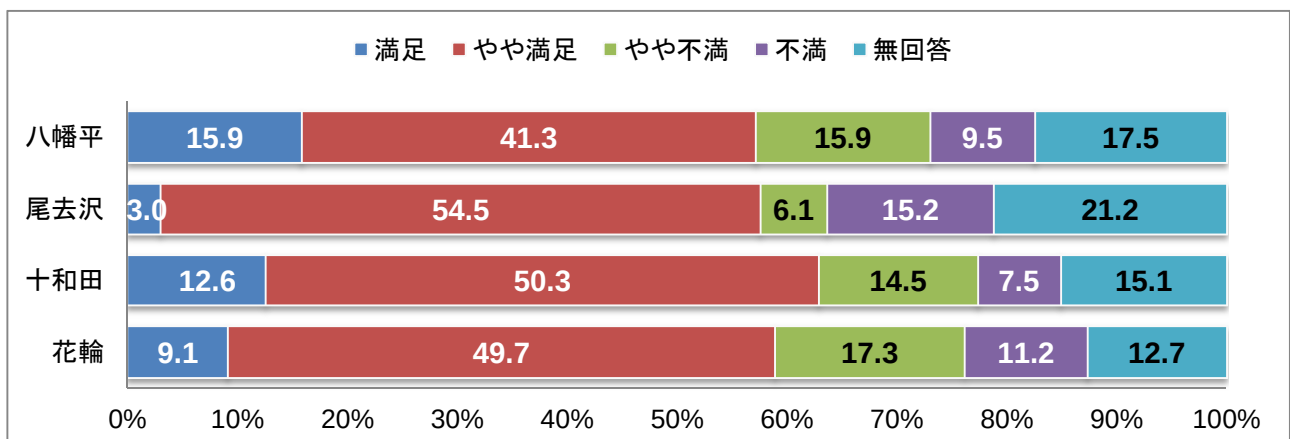
②年齢別

[単位：％]



②地区別

[単位：％]



④分析結果

「満足」、「やや満足」の割合が、約60%となっており、特に30代、40代の子育て世代の満足度が高くなっています。

一方で、同世代の「やや不満」、「不満」が28%となっており、「雑草が目立つ」、「トイレの汚れ」などの維持管理に関するものや、「近くにない」、「遊具の老朽化」等の整備に関するものが理由としてあげられています。

地区別にみても「満足」、「やや満足」の割合がいずれも約60%となっています。

「無回答」については、「利用しないのでわからない」という理由が多くあり、利用する方としない方の意識の差がうかがえます。

少子高齢化が進んでいる中、今後は子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすい公園環境の整備を検討していく必要があると考えます。

〔参考〕第6次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
公園の環境に満足している市民の割合	56.7%	59.8%	71.0%

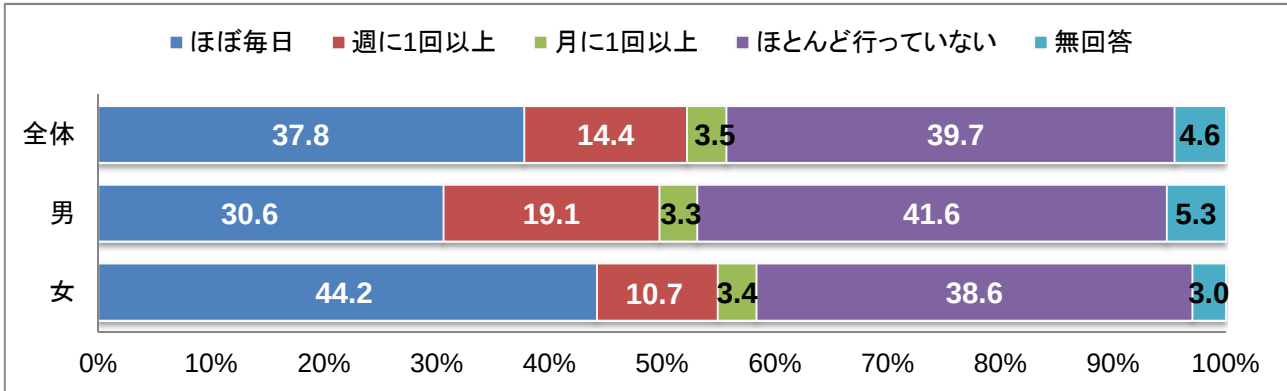
5 運動の実施状況について

設問⑥ あなたは、普段どれくらい「運動」（ウォーキングや軽い体操）や、健康を意識した「生活活動」（農作業や家事、階段の上り下り等も含む）を行っていますか。

また、1回あたりの運動時間はどのくらいですか。

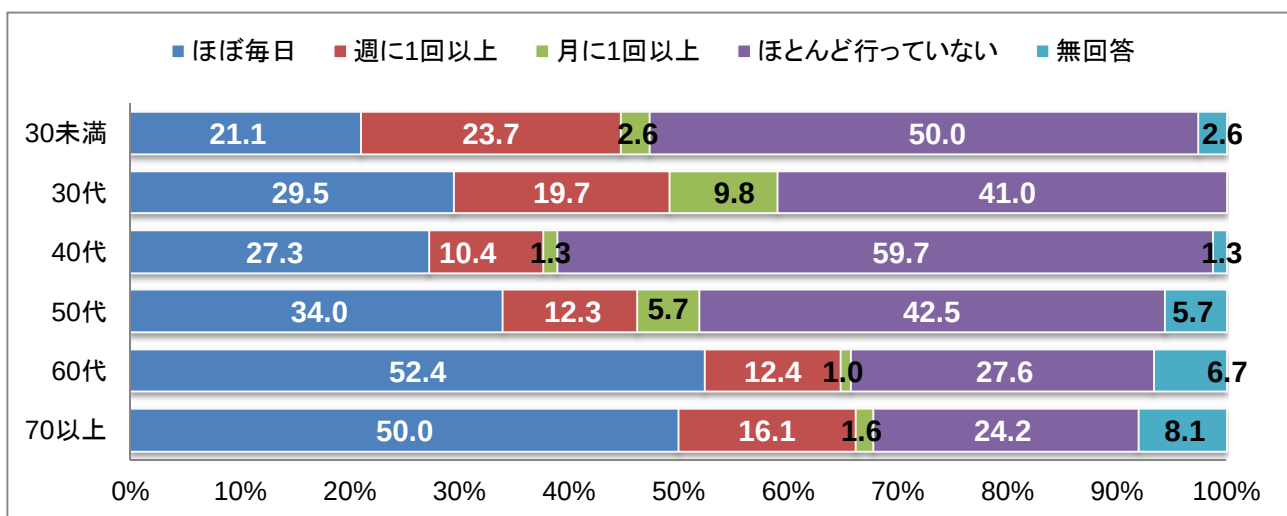
①全体／男女別

[単位：％]



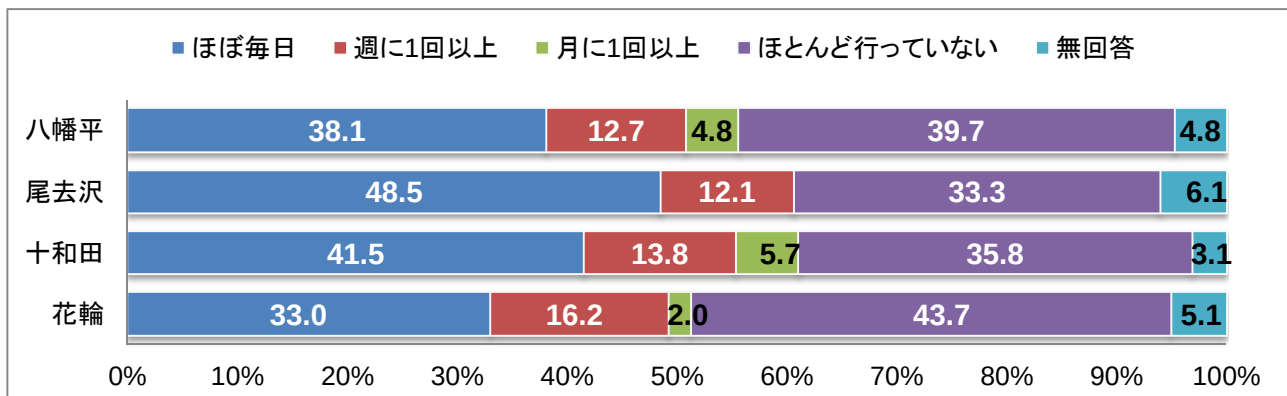
②年齢別

[単位：％]

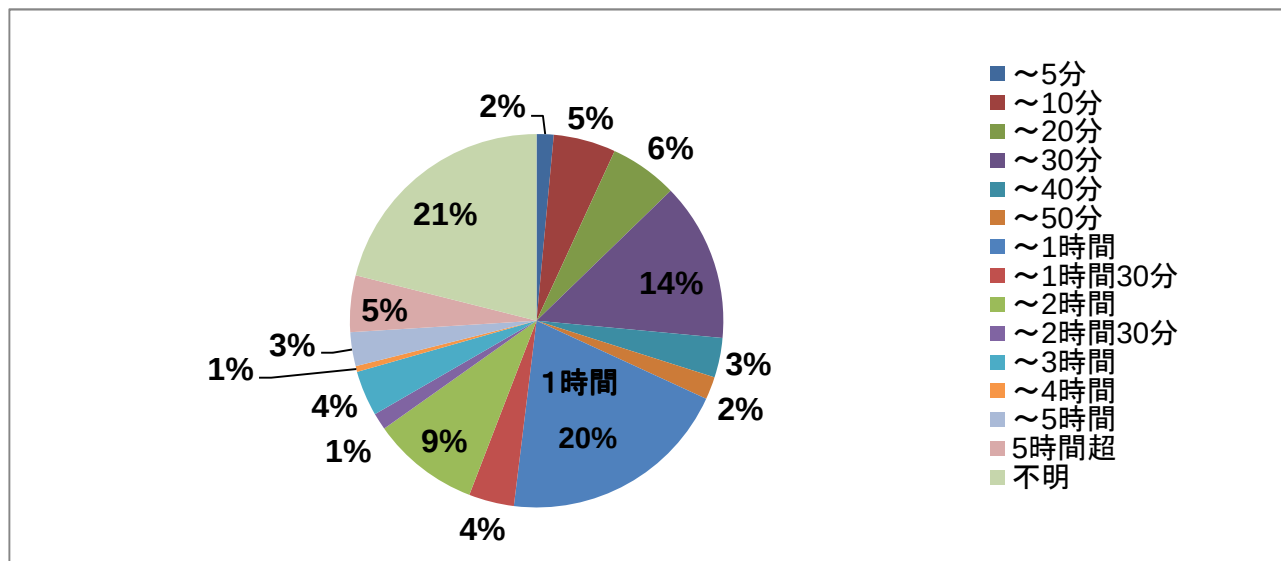


③地区別

[単位：％]



④ 1 回あたりの運動時間



⑤分析結果

週 1 回以上、運動等を実施している市民の割合は、健康を意識した生活活動を含むことを明示したこともあって、昨年度の 22.8%から大きく上回り 52.2%に上りました。

内容としては、ウォーキングや散歩、ストレッチ、ラジオ体操への取り組みが多数を占めており、このほか、家事や農作業等が 26%に上り、日常的な生活活動動作でも運動を意識して取り組むことで健康づくりにつながる、という意識が醸成されてきているものと考えられます。

年代別では 40 代で実施率が低く、地区別では花輪地区で低くなっています。

1 回あたりの運動時間は 1 時間程度が最も多い状況です。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

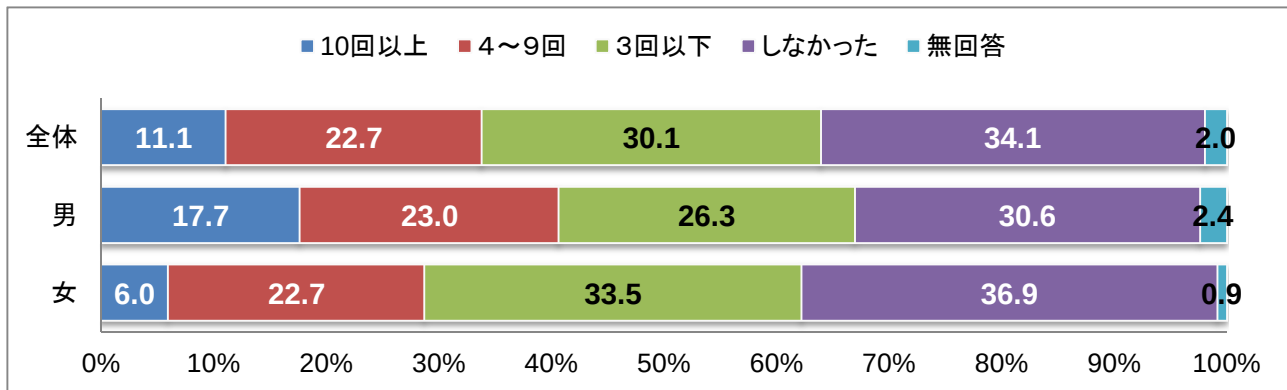
成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
週 1 回以上の頻度で運動やスポーツを実施する市民の割合	34.6%	52.2%	47.0%

6 地域コミュニティについて

問⑦ あなたは、昨年1年間に社会活動や地域活動（ボランティア活動、自治会活動など）にどの程度参加しましたか。

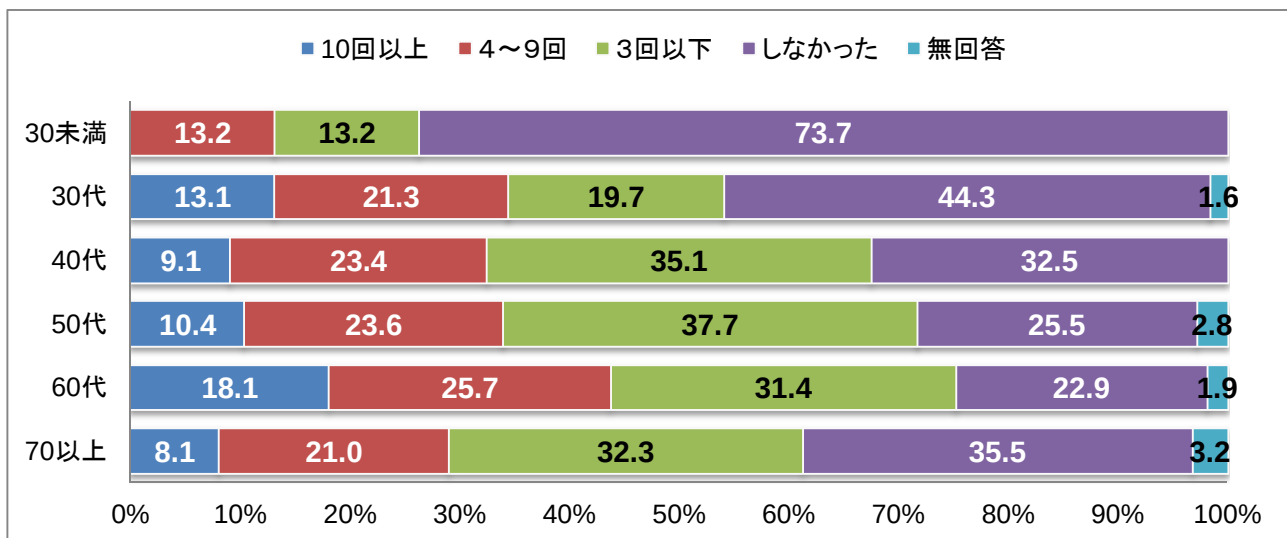
①全体／男女別

〔単位：％〕



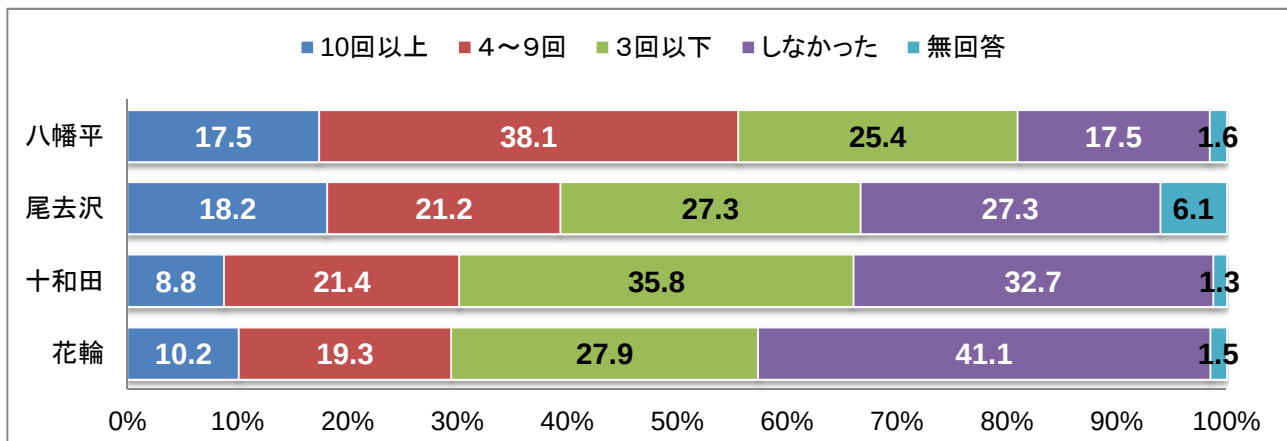
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

個人が昨年 1 年間に社会活動や地域活動へ参加した割合は、64.0%となり、昨年度の 61.7%から 2.3 ポイント上昇しています。

年代別でみると、30 歳未満と 30 代の参加しなかった割合がそれぞれ 73.7%、44.3%と高い割合を示しており、主に 50 代や 60 代の方により地域コミュニティの活動が支えられている状況は、昨年までと同様です。

地区別でみると、八幡平地域の参加しなかった割合は 17.5%と平均（34.1%）を大きく下回っており、地域コミュニティが盛んな地域であることがうかがえます。

〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

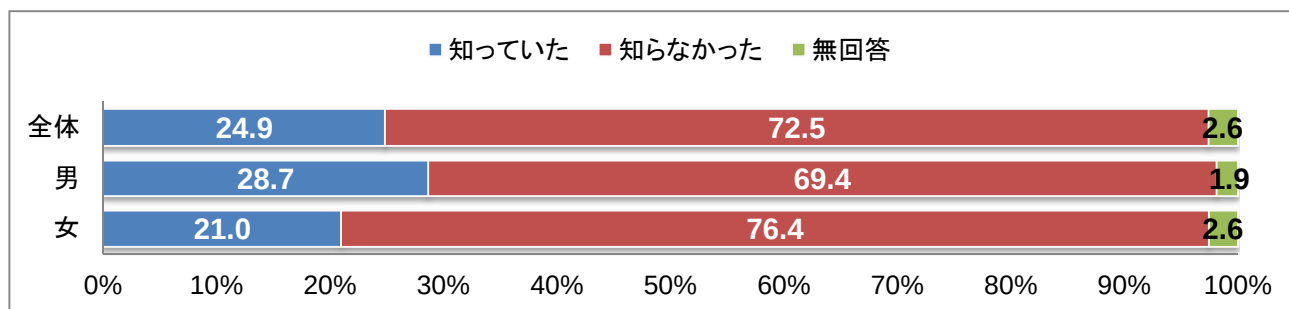
成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
社会活動や地域活動(ボランティア活動・自治会活動など)に参加した市民の割合	46.8%	64.0%	65.0%

7 男女共同参画の状況について

問⑧-1 あなたは、「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていましたか。

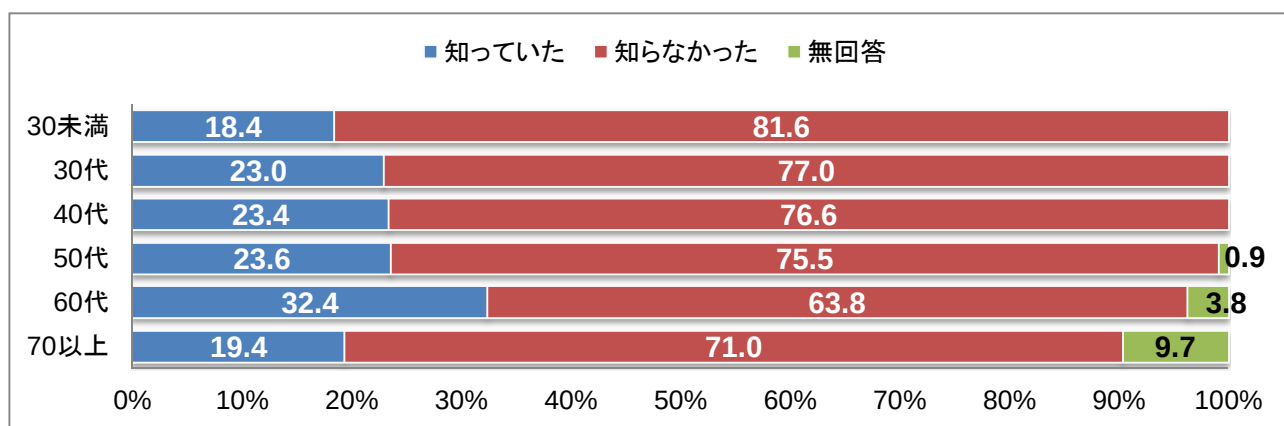
①全体／男女別

〔単位：％〕



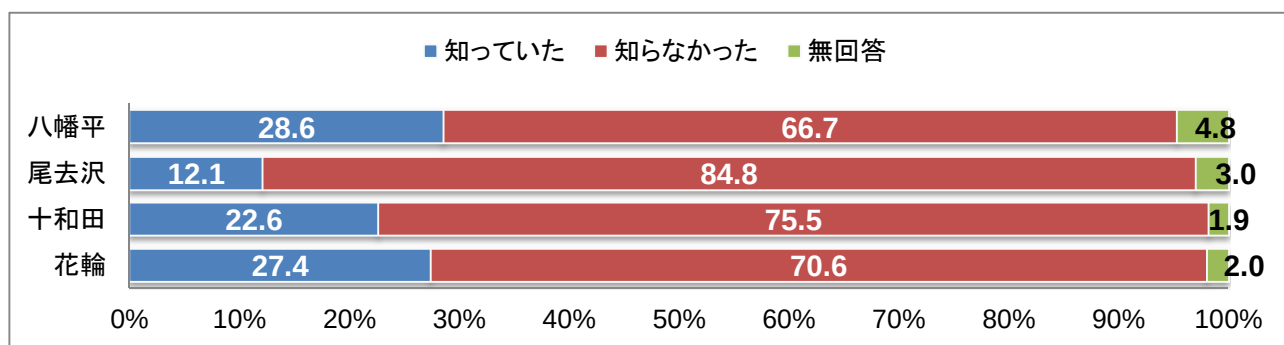
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っている人の割合は、24.9%と、昨年の調査(26%)とほぼ同じ状況です。

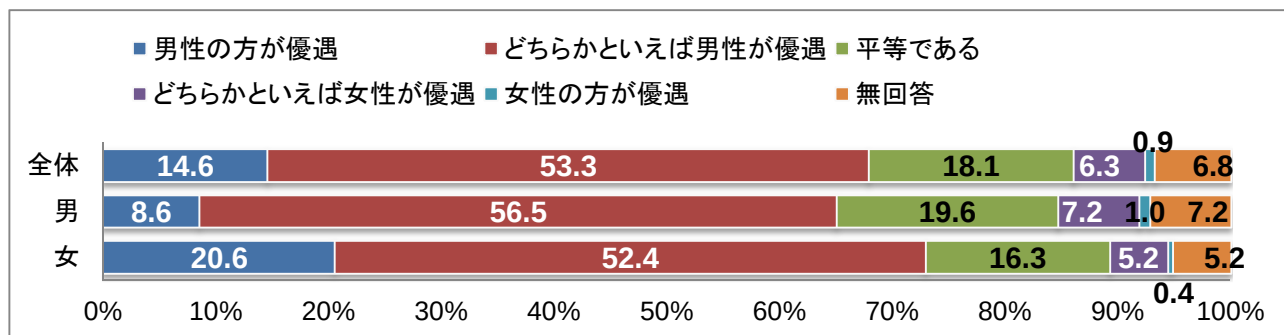
年代別でみると、30歳未満と70代で20%を下回っており、60代を除く他の年代でも20%台前半以下となっています。

全体の認知度を上げることはもちろんですが、30代以下の若年層での認知度を上げる必要があります。

問⑧-2 あなたは、地域社会全体でみた場合、男女の地位は平等になっていると思いますか。

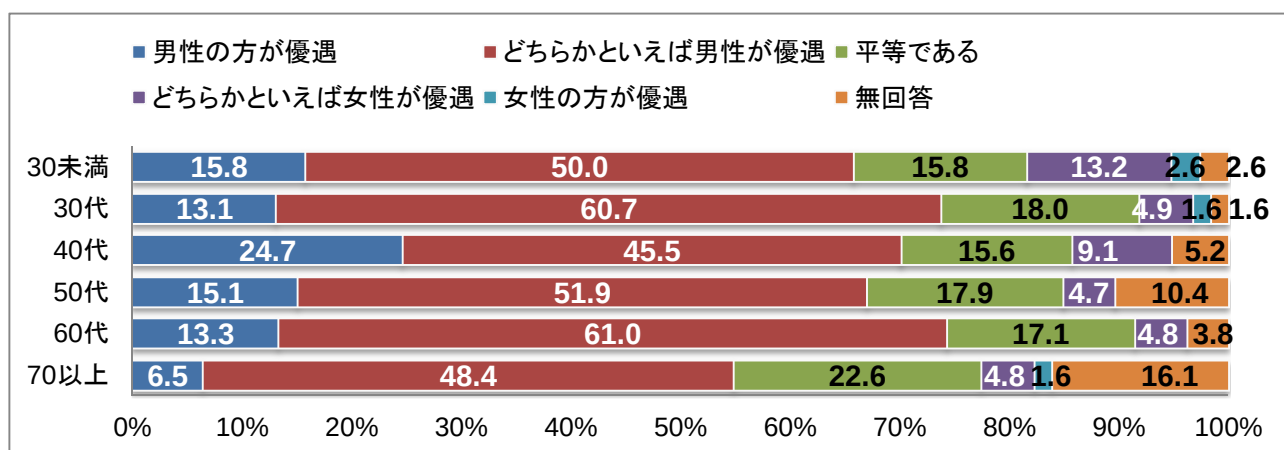
①全体／男女別

[単位：％]



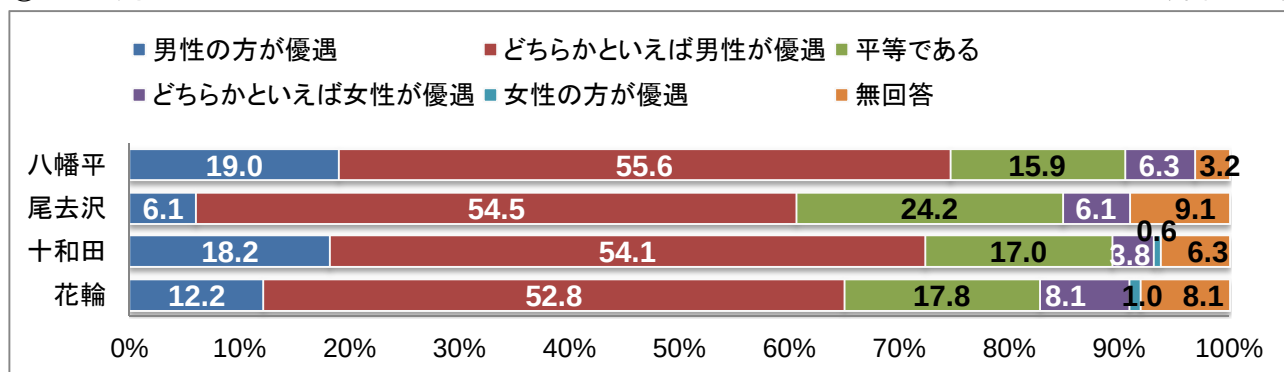
② 年齢別

[単位：％]



③ 地区別

[単位：％]



④分析結果

「男女の地位が平等である」と答えた人の割合は、18.1%となりました。

昨年度の調査と比較し3.9ポイント減少しており、「男性が優遇されている」と答えた人は、「どちらかといえば男性が優遇されている」も含めると67.9%と高い状況となっています。

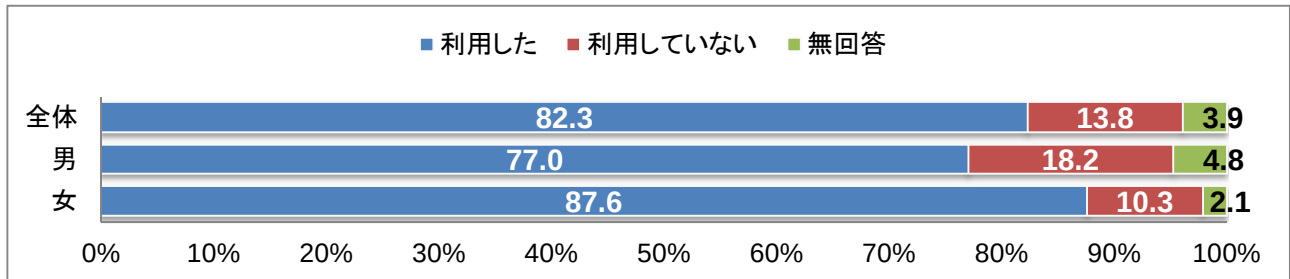
家事や育児などが女性だけの負担とならず、お互いに個性や能力を発揮できるよう、早い時期からの情報提供や学習機会を提供していく必要があります。

8 地域医療について

問⑨-1 あなた（未成年のお子さんがある場合はその方を含む）は過去 1 年間で、医療機関を利用しましたか（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）。

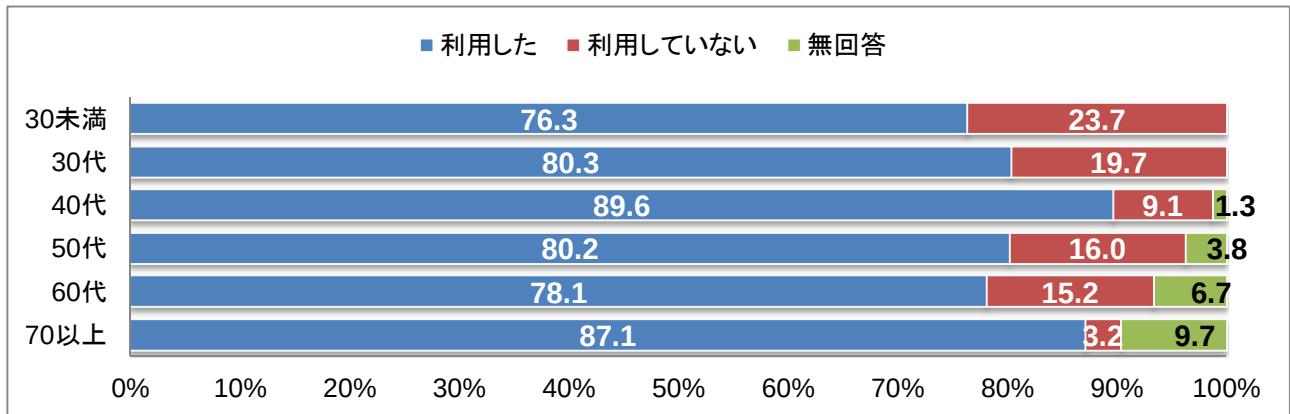
①全体／男女別

〔単位：％〕



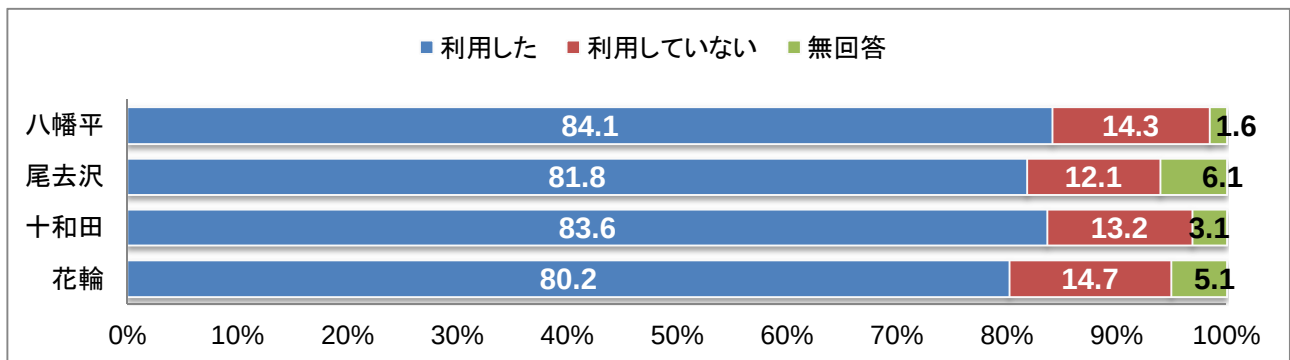
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

過去 1 年間で検診や予防接種も含め医療機関を利用した人の割合は、82.3%と高い水準であり、このことから多くの方が医療機関を利用していることが分かります。

男女別では女性が 87.6%と、男性より 10.6 ポイント高くなっています。

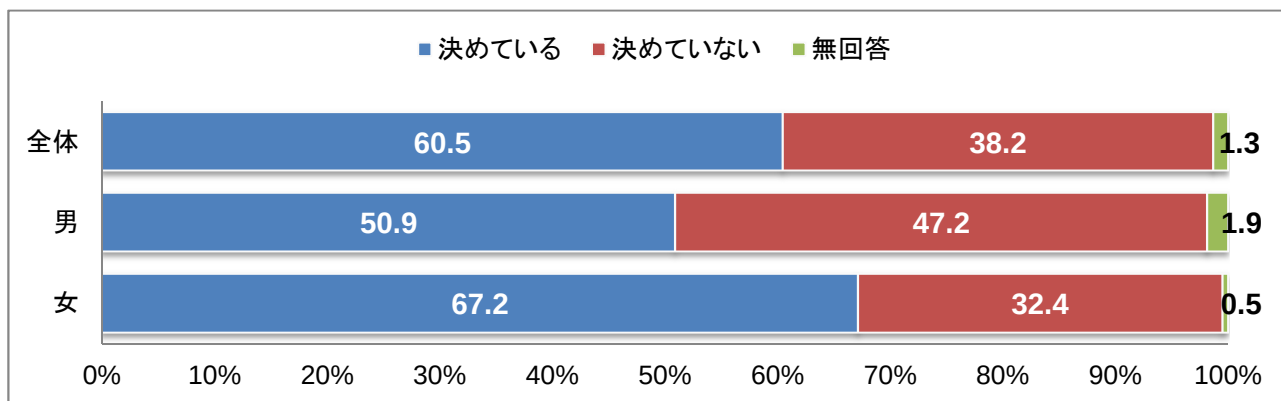
また、年代別では 40 代の 89.6%が一番高く、次いで 70 代の 87.1%となっており、そのほかの年代は 80%前後となっていることから、必ずしも加齢とともに高くなるわけではないことが分かります。

問⑨-2 「かかりつけ医」とは、特定の病気の専門医ではなく、日頃からちょっとした病気のと
きに、決まって診てもらっているお医者さんのことです。

あなたは、「かかりつけ医（歯科医を除く、検診及び予防接種を含む）」を決めていますか。

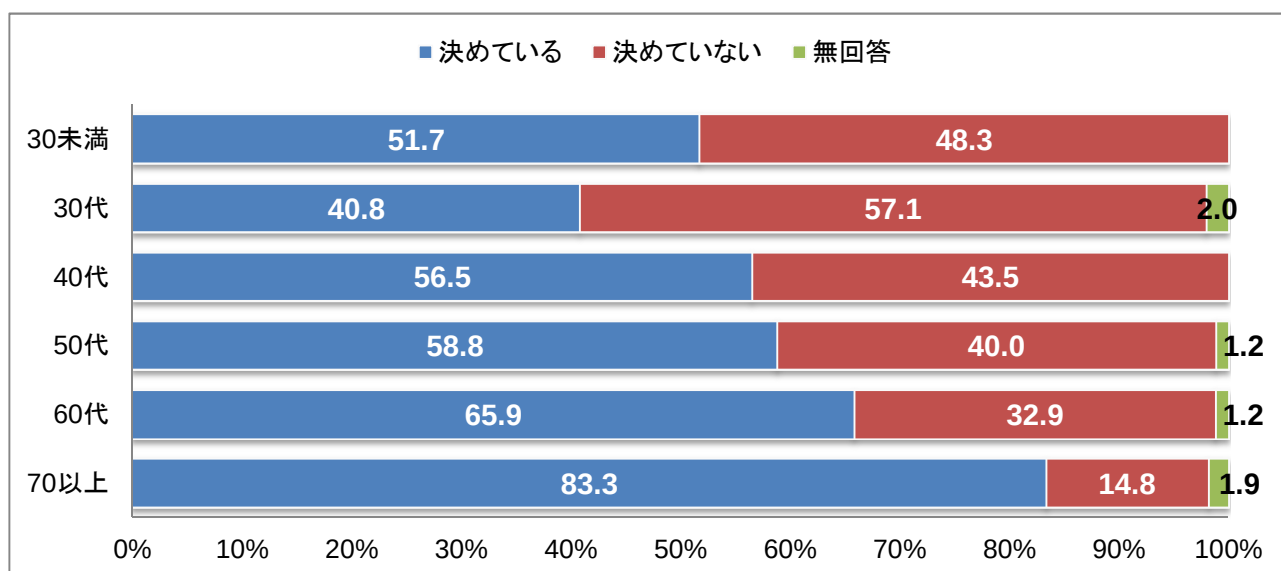
①全体／男女別

〔単位：％〕



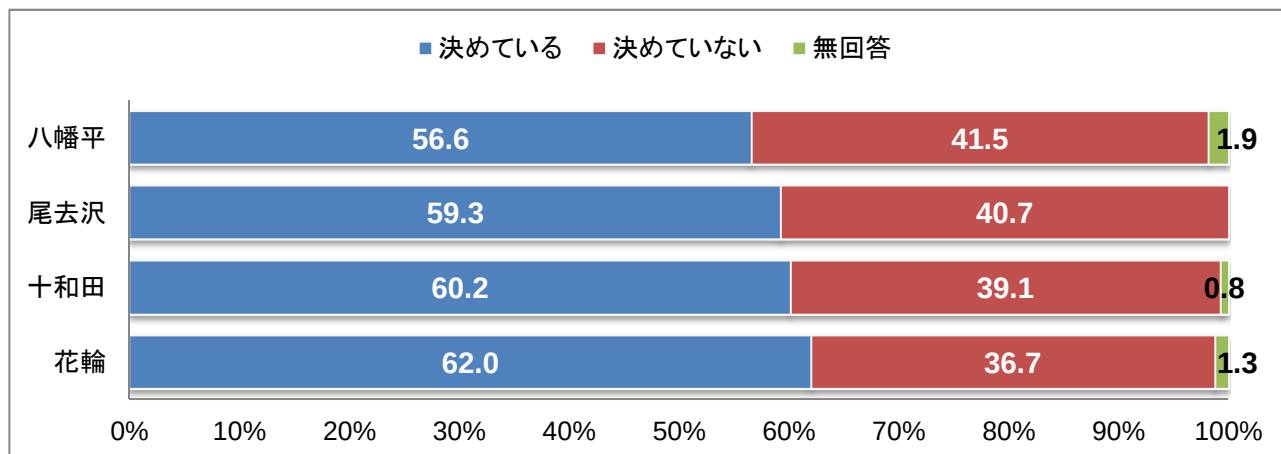
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

かかりつけ医を決めていると回答した方は 60.5%で、昨年度比 11 ポイントの増となりました。この要因としては、過去 1 年間で医療機関を利用したことがある方を対象に伺ったことでもあります。昨年度、かかりつけ医への意識づけと救急医療知識の普及啓蒙を目的とした「あんしん医療ハンドブック」を配布したことにより、かかりつけ医への意識づけが徐々に浸透してきたものと考えられます。

年代別では、加齢とともにかかりつけ医を決めている割合が高くなる傾向がみられ、70 代では 83.3%となっています。

しかし、30 代については 40.8%と半数以下になっていることから、引き続きかかりつけ医という定義の意識づけとメリットを周知していくことが必要であると考えます。

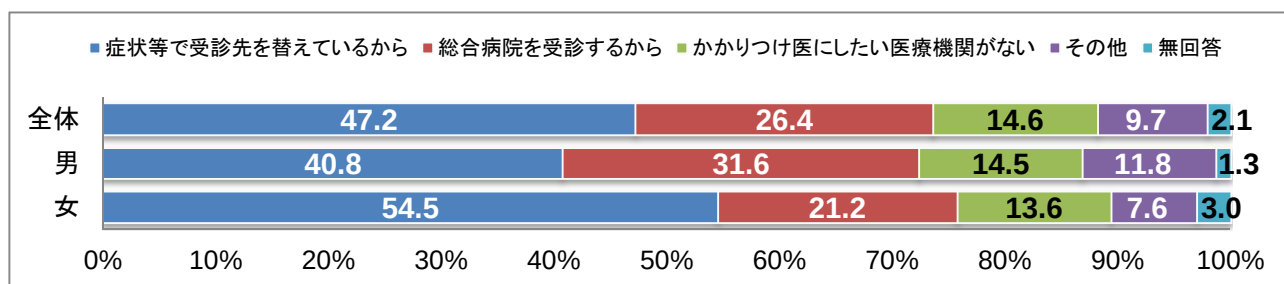
〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
かかりつけ医を持っている市民の割合	64.1%	60.5%	65.0%

問⑨-3 問⑨-2 で「2. 決めていない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。

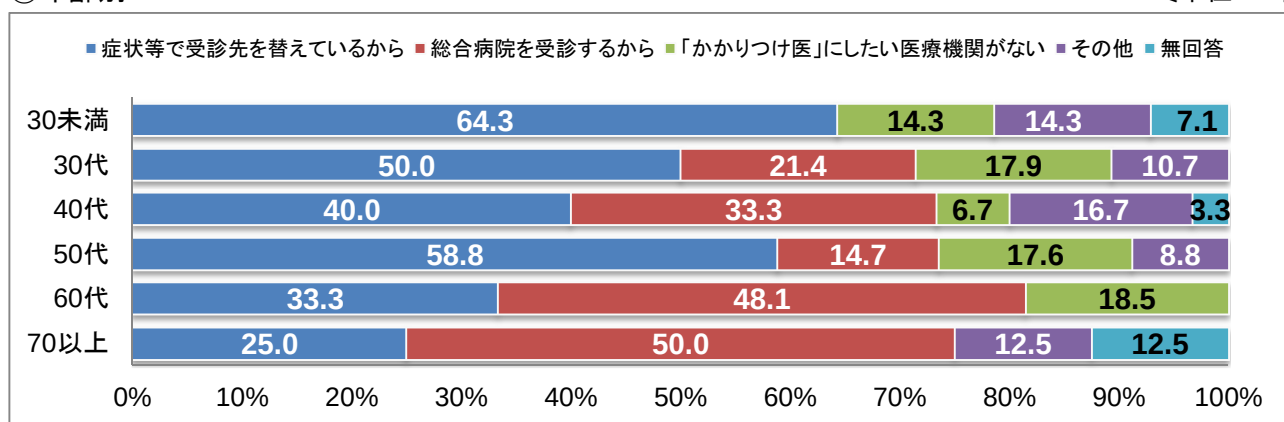
①全体／男女別

〔単位：％〕



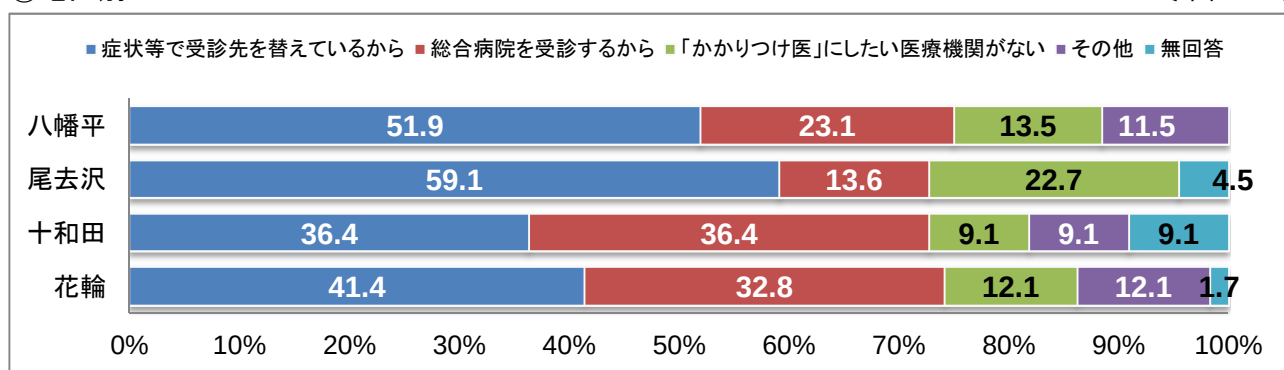
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

かかりつけ医を決めていない理由として、全体的には症状等で受診先を替えている割合が高くなっており、男女別では女性の方が高く 50%を超えています。

しかし年代別でみると、40代と60代で総合病院を受診する割合が高くなっています。また、30代と50代、60代ではかかりつけ医にしたい医療機関がないとする回答が20%を超えており、これらについては市街の医療機関で受診されている可能性が高いものと考えられます。

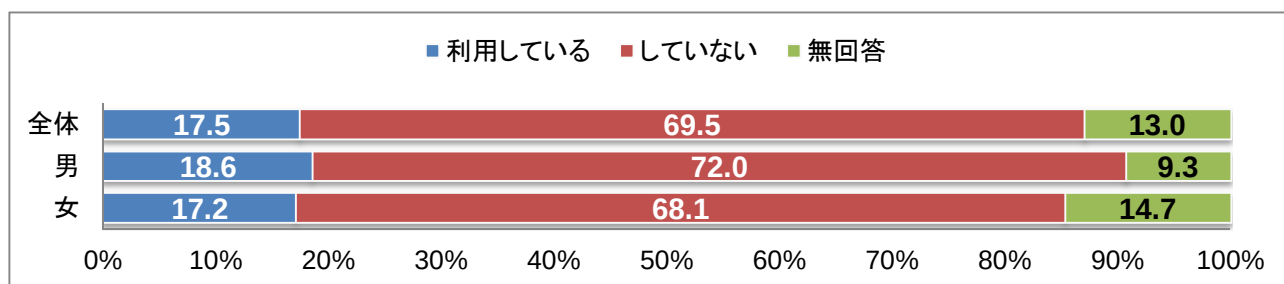
地区別では、症状で受診先を替える、総合病院を受診する、の順で推移していますが、八幡平地区においてはかかりつけ医にしたい医療機関がないという回答が1番多くなっています。

その他の意見としては、特に病気をしていないなどの理由から、医療機関を受診する機会が少ないためかかりつけ医をもたないとする意見が多くありました。

問⑨-4 あなた（未成年のお子さんがある場合はその方を含む）は、普段、在宅当番医を利用していますか。

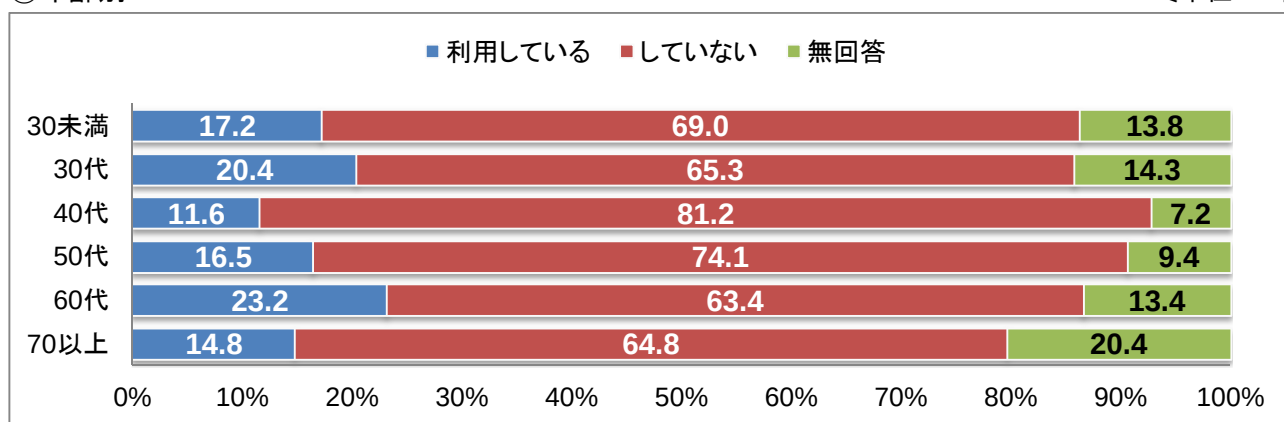
①全体／男女別

〔単位：％〕



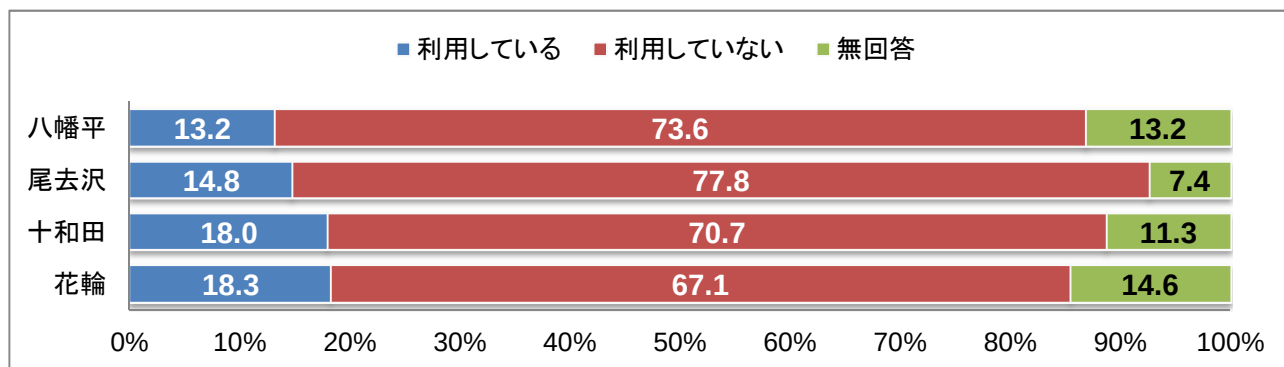
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

在宅当番医を利用していると回答した方は17.5％で、昨年比5.9ポイントの微増となっています。

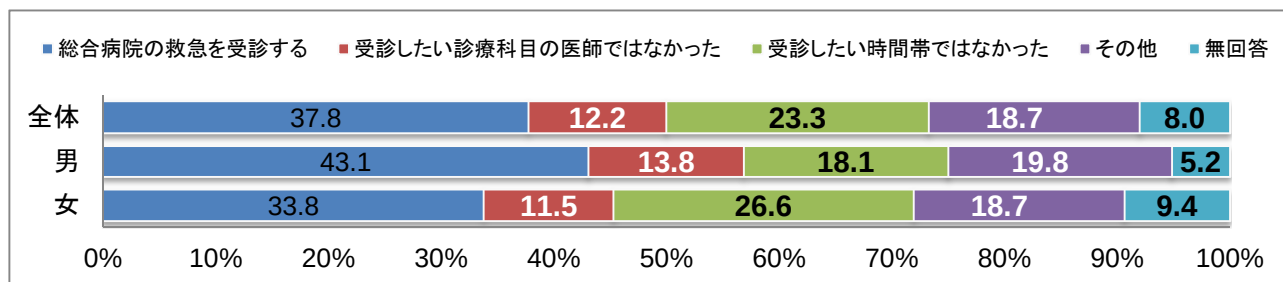
男女別では、男性が18.6％で昨年比5.4ポイントの増、女性が17.2％で昨年比6.7ポイントの増となっていますが、男性については利用していないと回答した方の割合も前年比3.9ポイントの増となっています。年代別でみると、20代と30代、60代で前年比10ポイント以上の増となっていますが、逆に40代については利用していない割合が増える結果となりました。地区別では、十和田地区が18.0％と前年比15.4ポイント増、花輪地区が18.4％で前年比8ポイント増と、医療機関のある地域は比較的伸びていますが、八幡平地区や尾去沢地区については前年比1ポイント増と微増で、逆に利用していない割合が増えています。

在宅当番医の利用率は微増しているものの、全体的には低調であるため、一人でも多くの方が利用しやすい環境を整える必要があります。

問⑨-5 問⑨-4 で「2. 利用していない」を選んだ方におたずねします。それはどのような理由からですか。

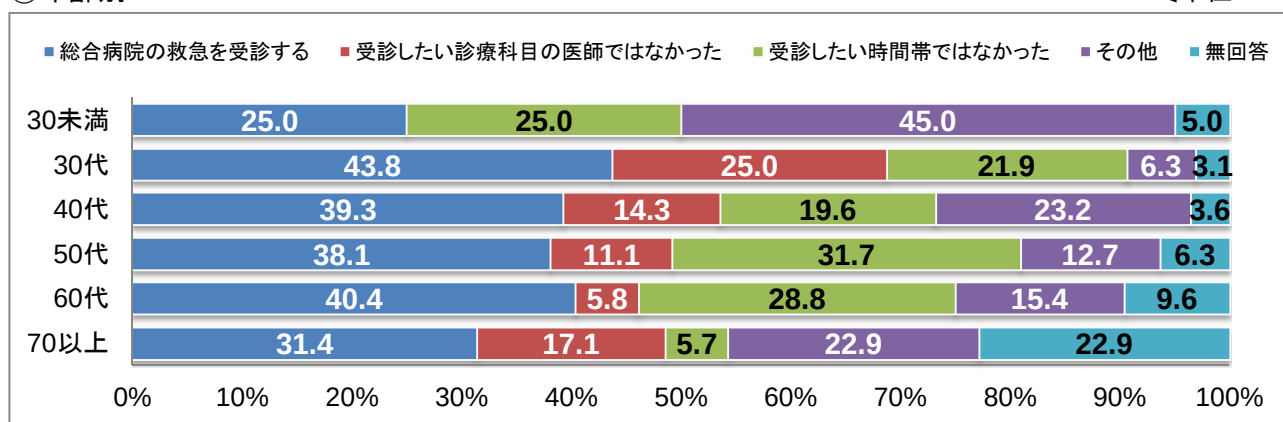
①全体／男女別

〔単位：％〕



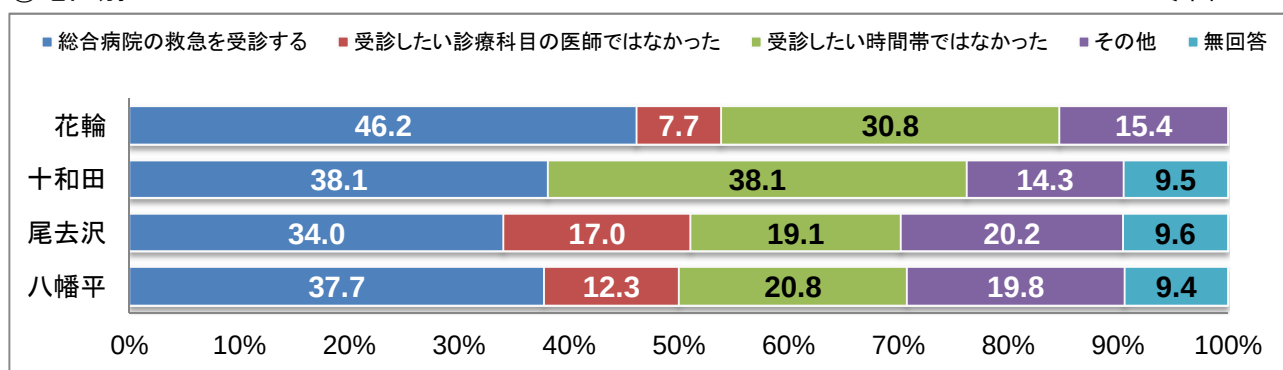
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

〔単位：％〕



④分析結果

利用していない理由では、男女ともに「総合病院の救急を受診する」の割合が高いものの、全体では37.8％と前年比2.8ポイント減の微減となっています。次いで割合が高かった「受診したい時間帯ではなかった」や「受診したい診療科目の医師でなかった」では、逆に微増する結果となっています。

年代別においても、男女別同様「総合病院の救急を受診する」が多くなっていますが、30代と50代、60代においては「受診したい時間帯ではなかった」が10ポイント以上増えています。

その他としては、「利用する機会がなかった」という意見のほかに、「在宅当番医が分からない」など診療体制や対応にかかる意見もありました。

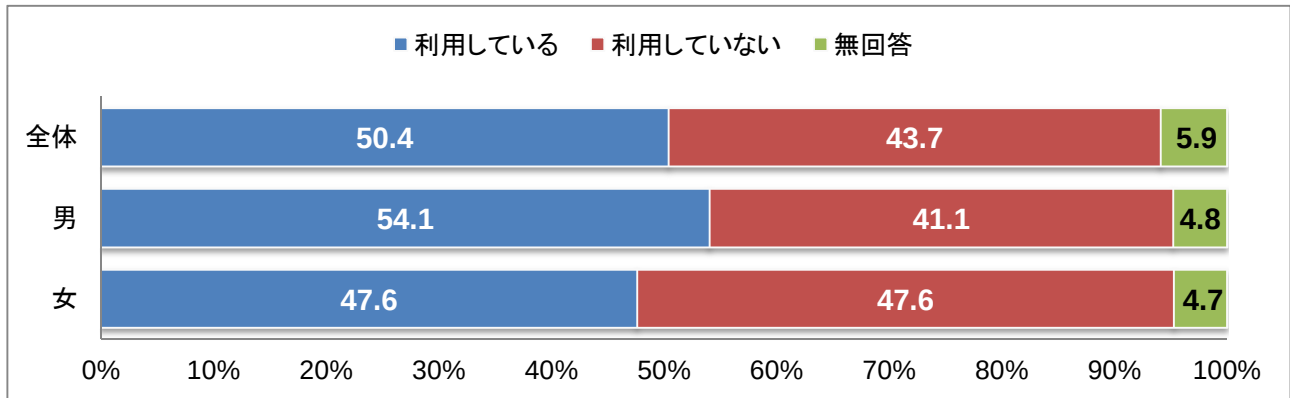
このことから、在宅当番医については引き続き制度そのものを含めた診療体制等の周知を進めるとともに、あわせて総合病院における適切な受診についても啓発していく必要があります。

9 地域情報化について

設問⑩-1 あなたはインターネットを利用していますか。

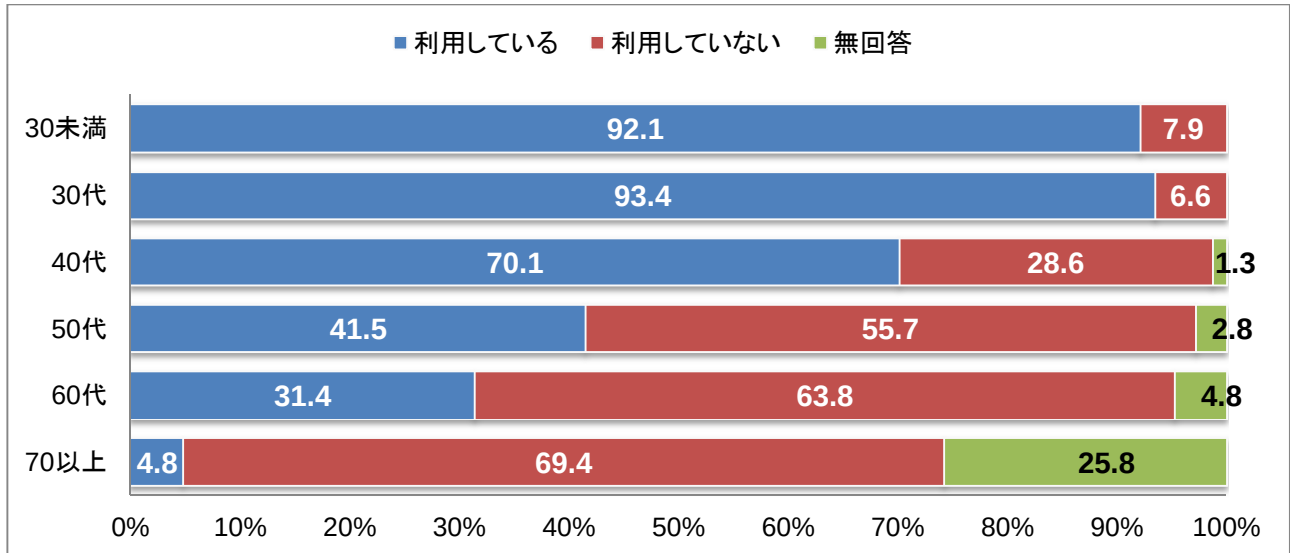
①全体／男女別

〔単位：％〕



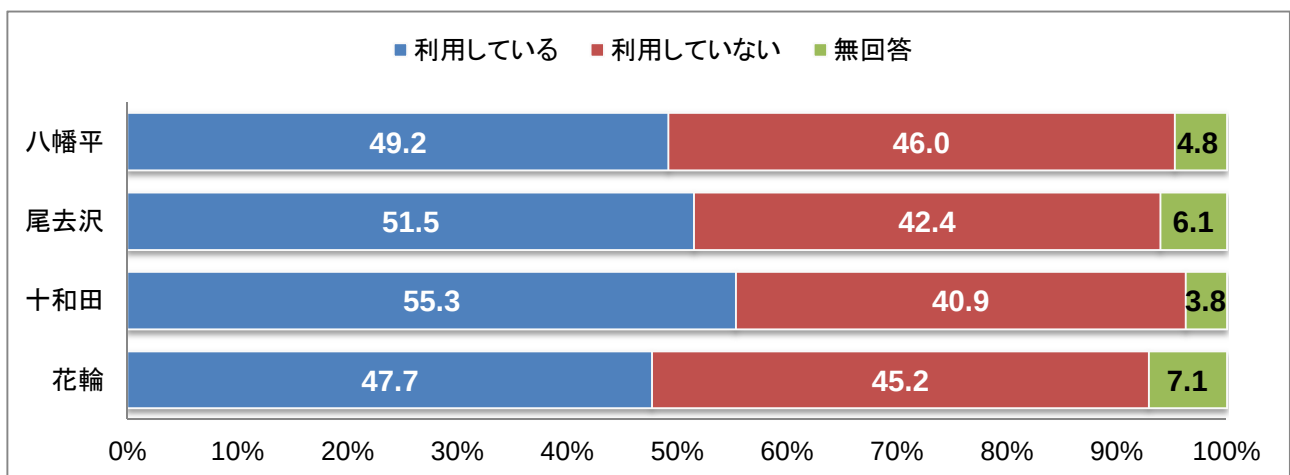
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

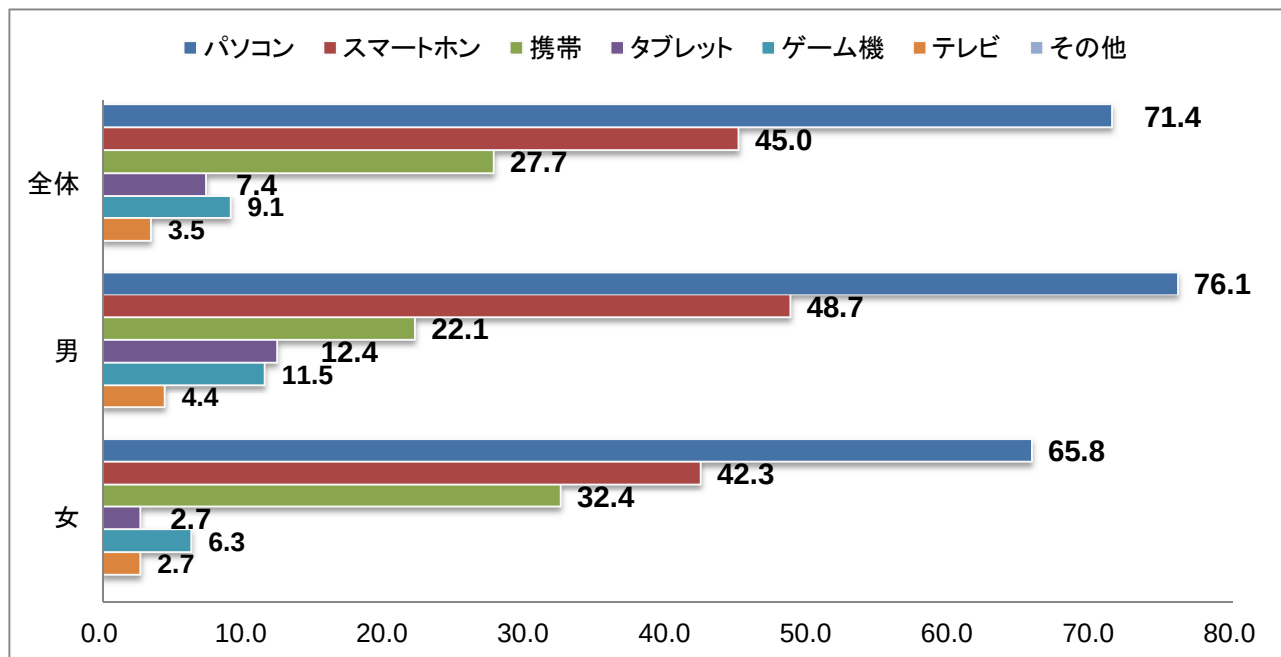
〔単位：％〕



◆利用している場合の利用機器（すべて回答）

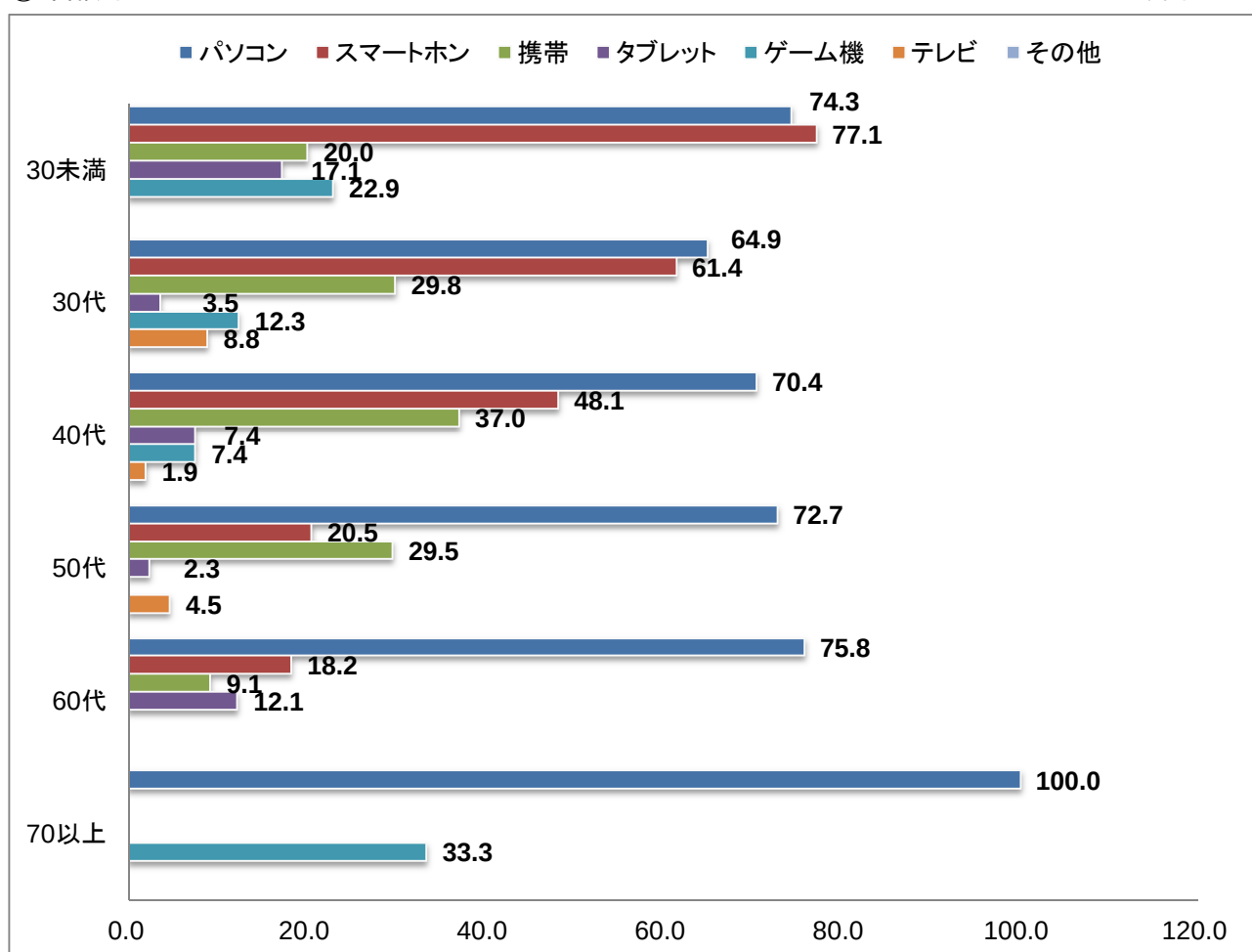
①全体／男女別

〔単位：％〕



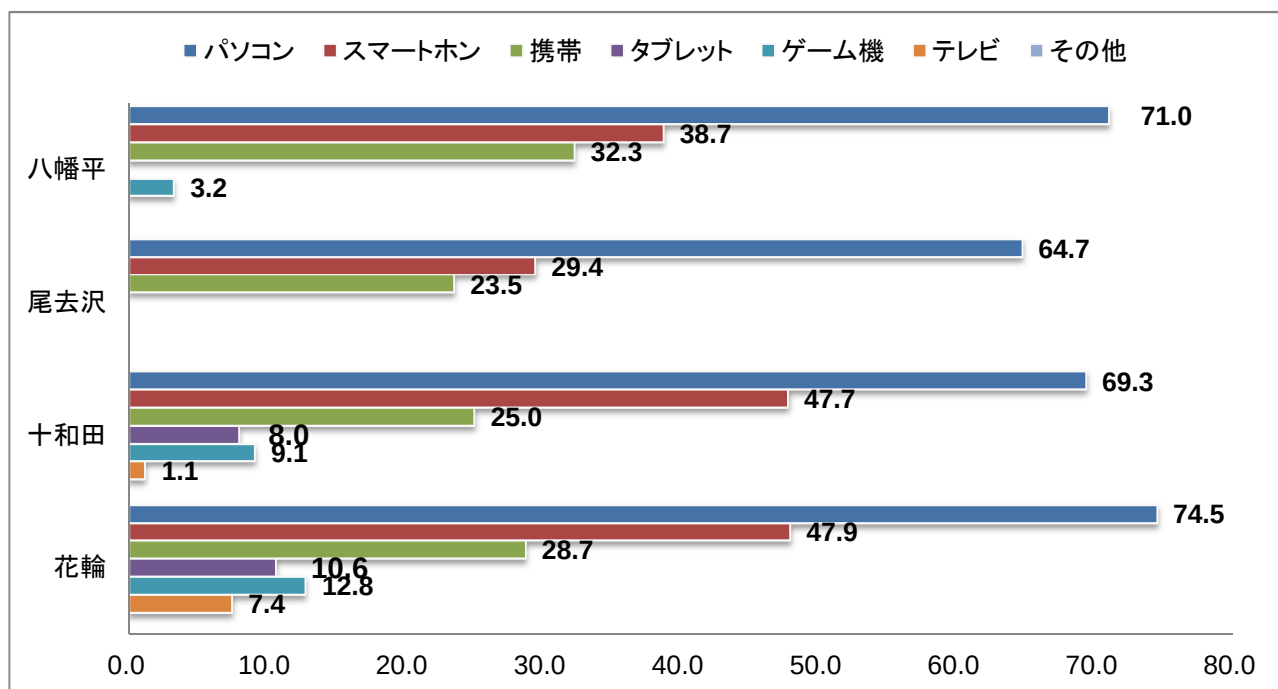
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

[単位：％]



④分析結果

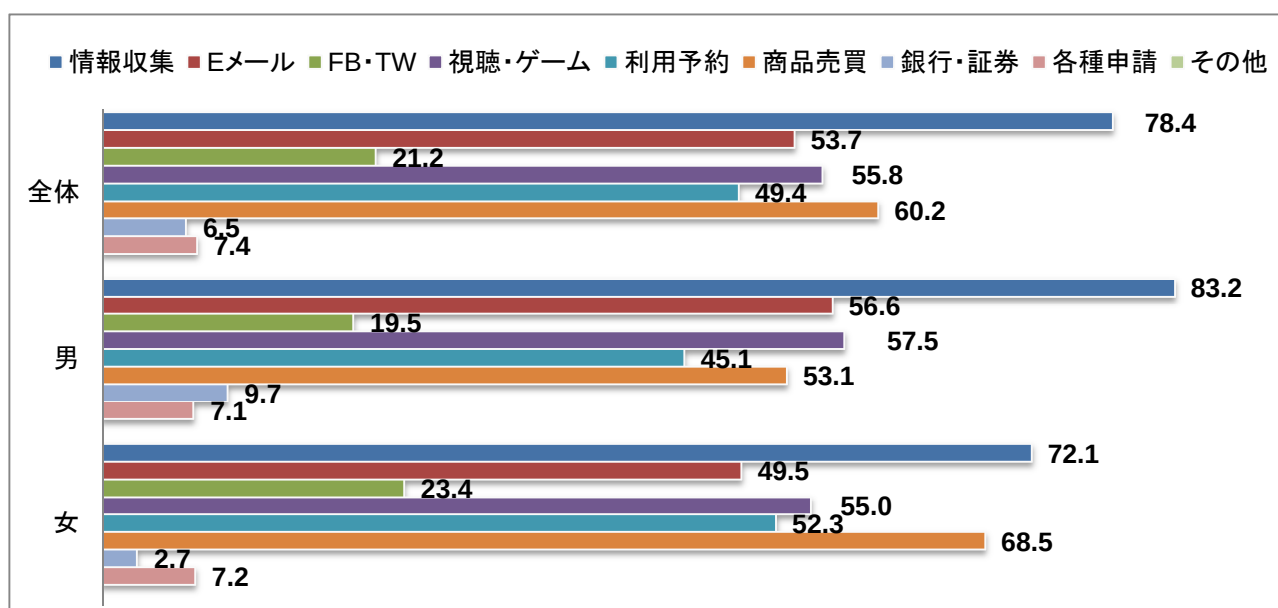
インターネットを利用しているとの回答が50.4%となっており、これを年代別にみると、30代以下においては9割を超える利用状況にありますが、40代以降は年代が上がるにつれて利用割合が低くなり、60代では3割、70代では1割以下にとどまっています。

機器別の利用状況については、パソコンが71.4%と圧倒的に多く、次いでスマートフォン45.0%、携帯電話27.7%となっています。パソコンがインターネット利用の主要機器となっていますが、30代以下の世代においては、スマートフォンがパソコンと同等の割合を示すほどの主要機器となっています。

問⑩-2 問⑩-1で「1. インターネットを利用している」と答えた方にお聞きします。インターネットをどのような目的で使用していますか（すべて回答）。

①全体／男女別

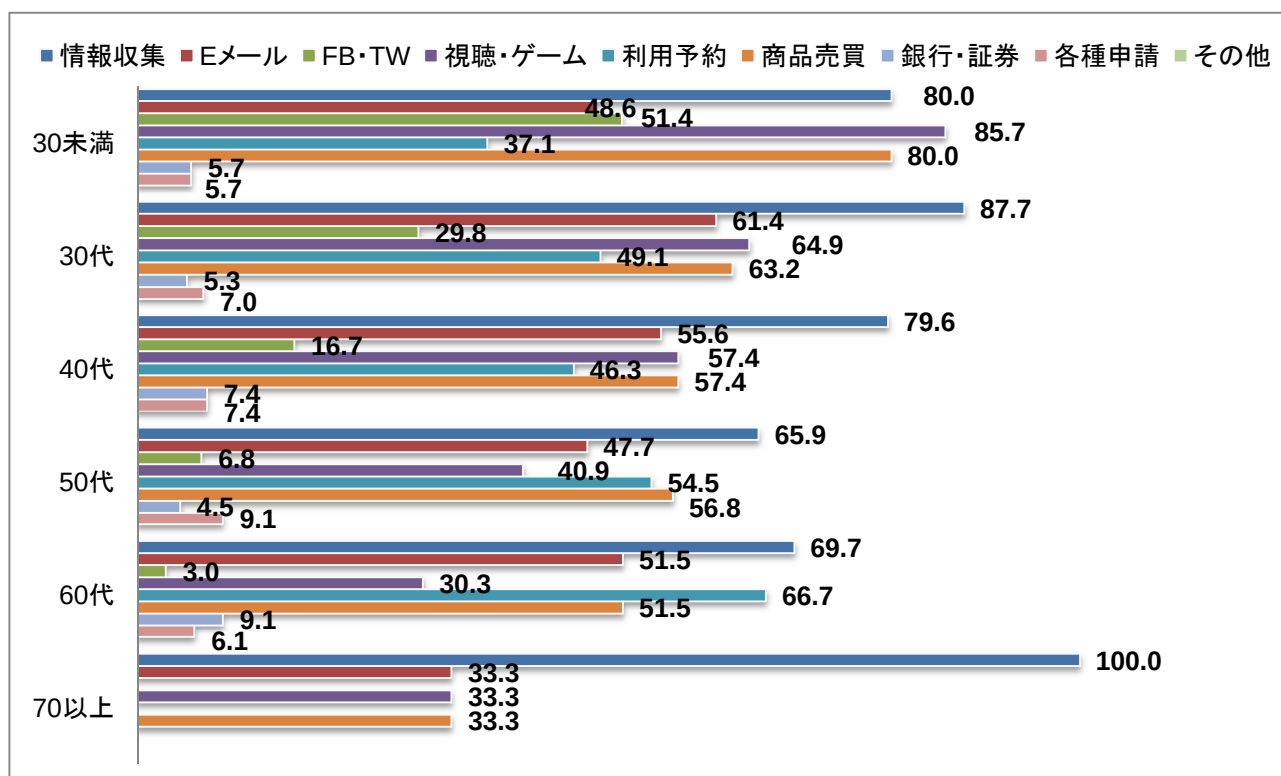
[単位：％]



※FB=フェイスブック・TW=ツイッター

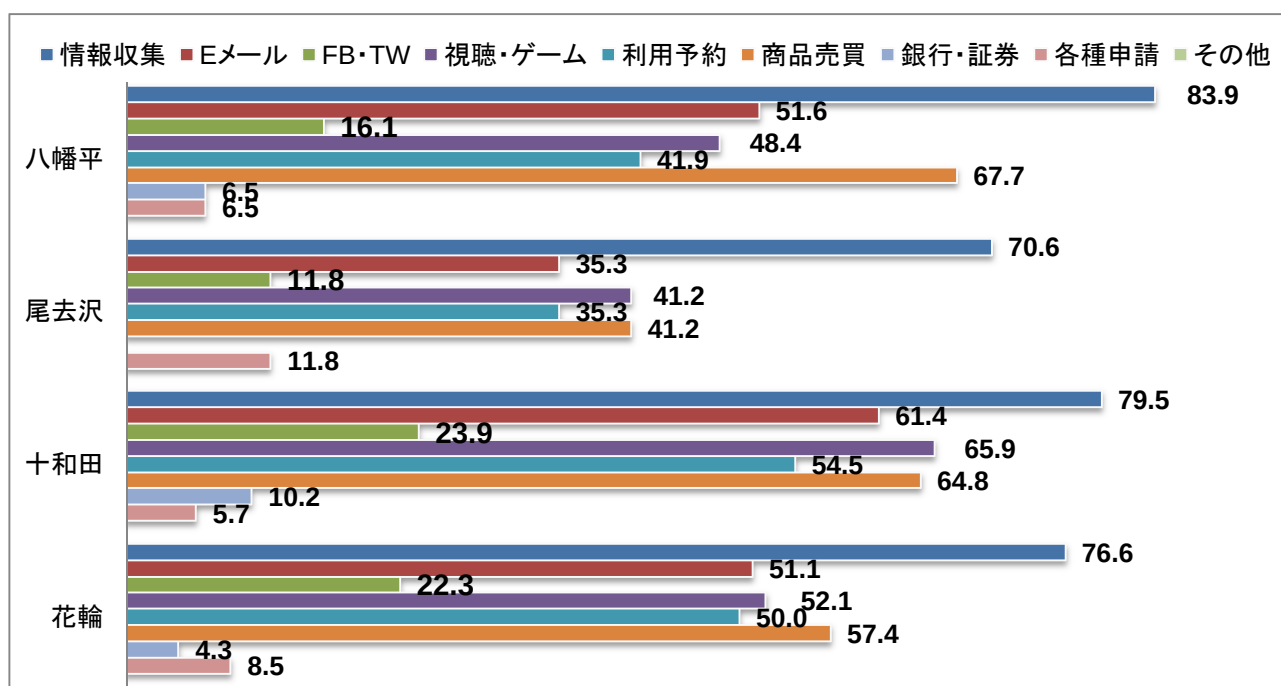
②年齢別

[単位：％]



③地区別

[単位：％]



④分析結果

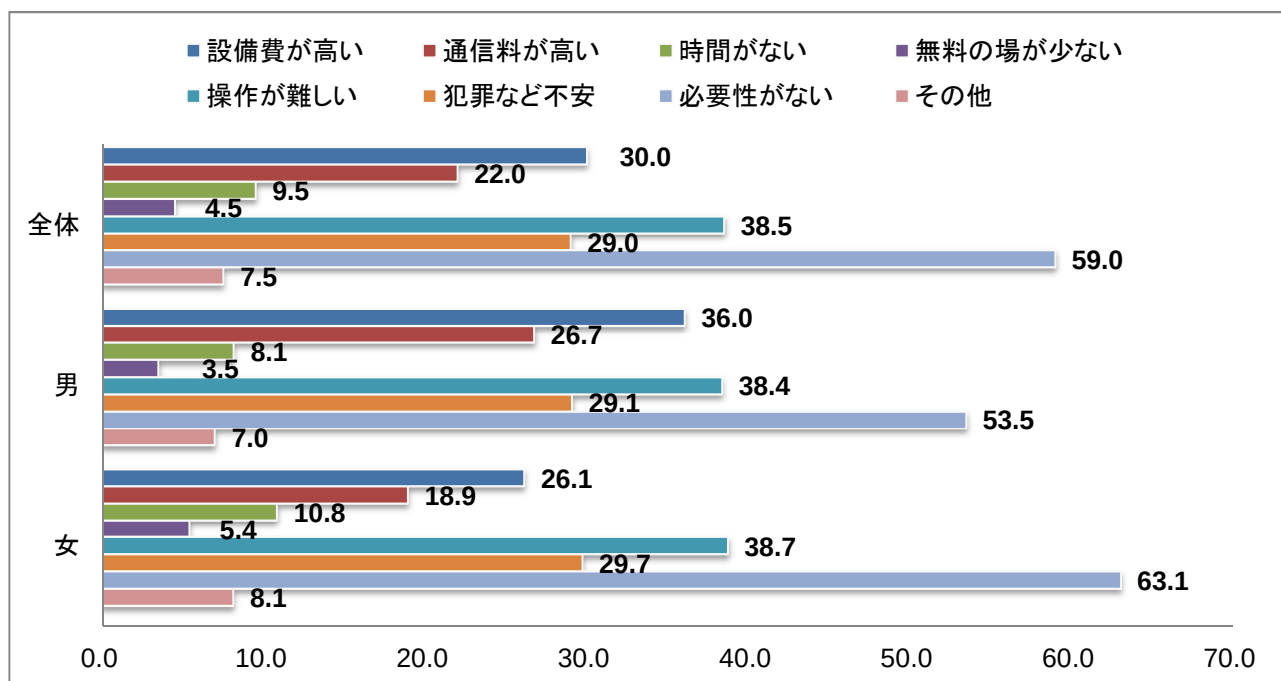
インターネット利用者の利用目的については、情報収集が78.4%と最も高く、次いで商品の売買が60.2%、動画等の視聴・オンラインゲーム等の娯楽が60.2%、電子メールが53.7%、施設・ホテルや交通機関の予約が49.4%と高い利用率となっています。

また、フェイスブックやツイッターなどのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の利用が、30歳未満で約5割、30代では3割となっており、情報共有やコミュニケーションツールとして徐々に浸透してきているようです。

問⑩-3 問⑩-1で「2. インターネットを利用していない」と答えた方にお聞きします。インターネットを利用しないのはどのような理由からですか（3つまで回答）。

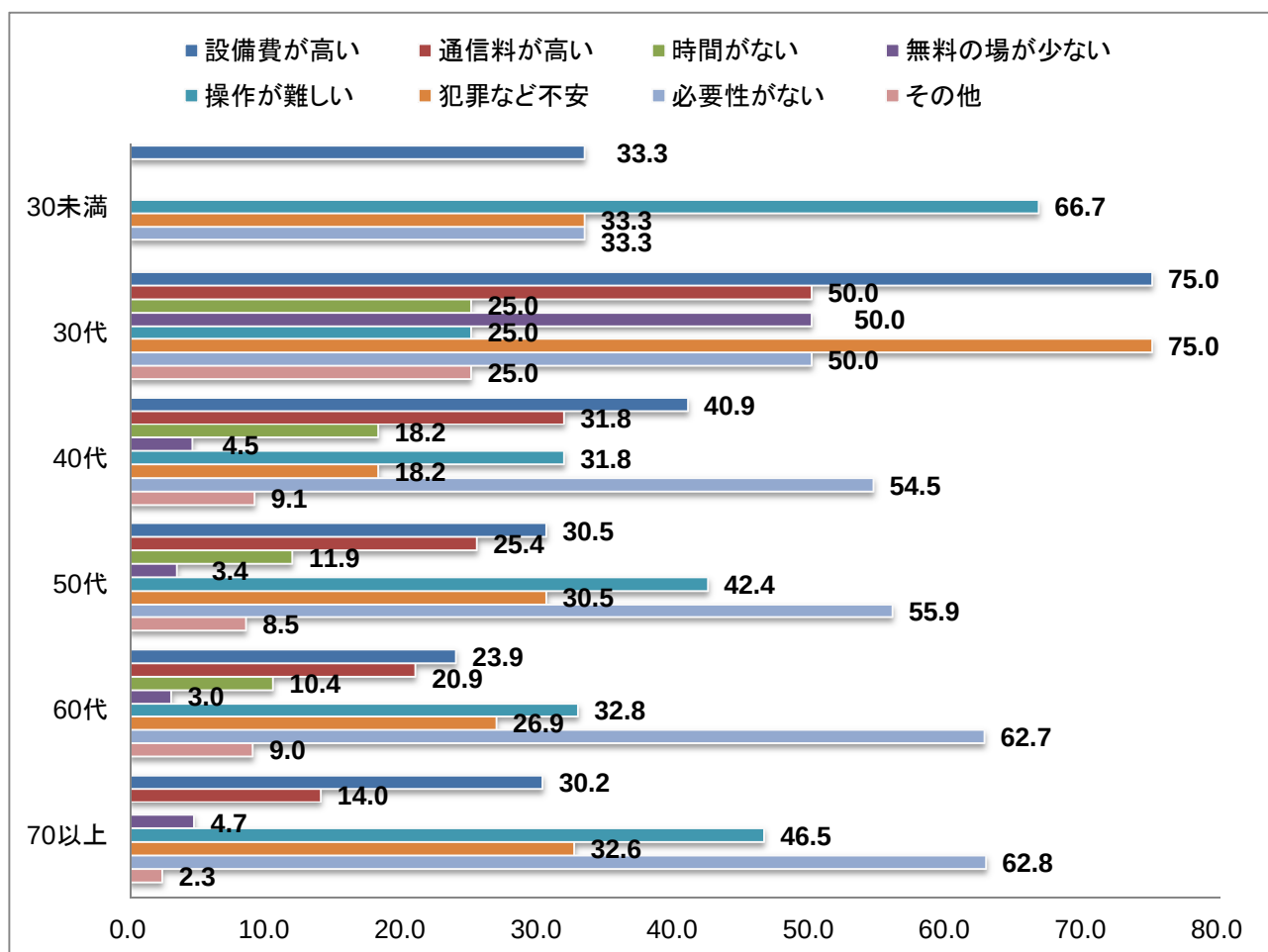
①全体／男女別

〔単位：％〕



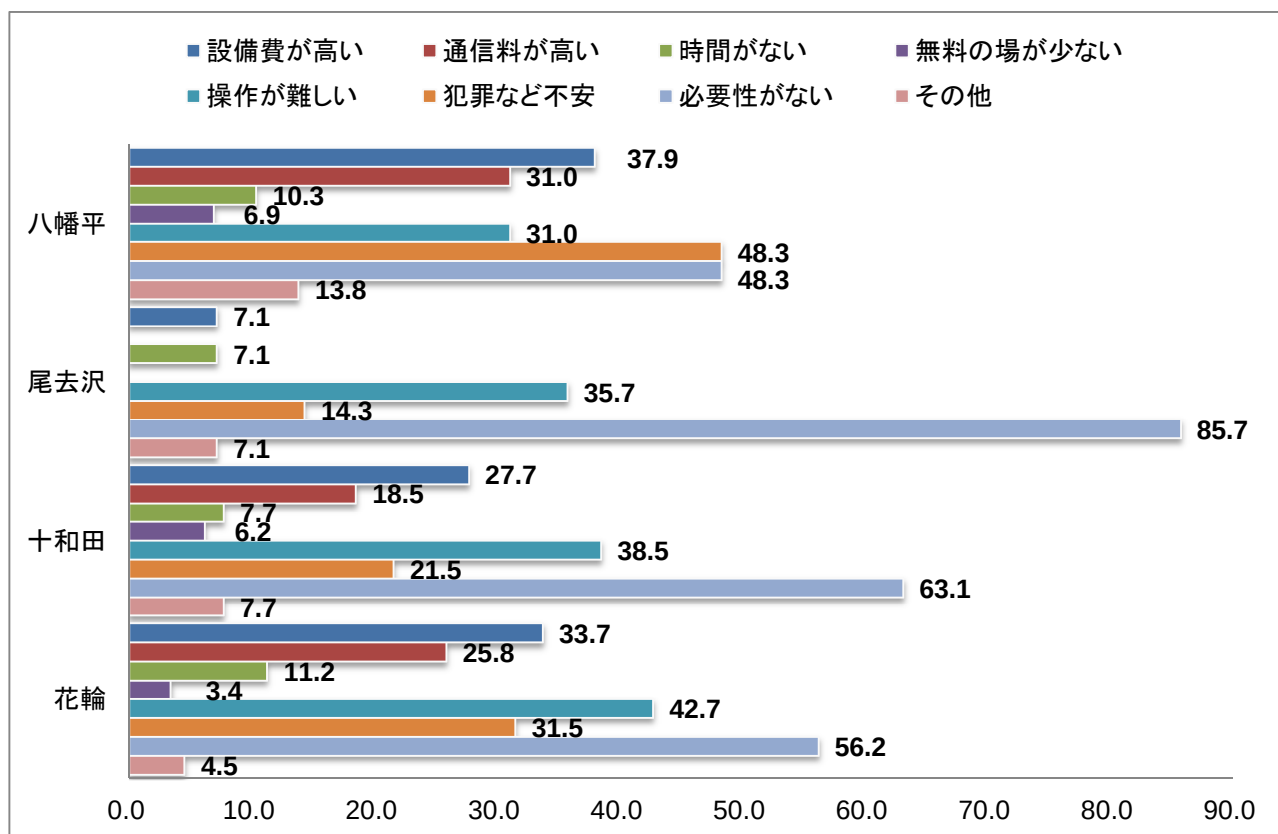
②年齢別

〔単位：％〕



③地区別

[単位：％]



④分析結果

インターネットを利用しない理由については、「必要性がない」が 59.0%であったほか、「設定や操作が難しい」が 38.5%、「機器や設置費用が高い」が 30.0%となっています。

「必要性がない」との回答は、年代が上がるにつれてその割合も高くなり、特に 60 代、70 代では 6 割を超えています。

50 代以上の年代においては、インターネットを利用していない方が 5 割を超えており、なおかつ利用しない理由において「必要性がない」との回答が 5 割を超えていることから、これ以上の普及が困難な状況がうかがえます。

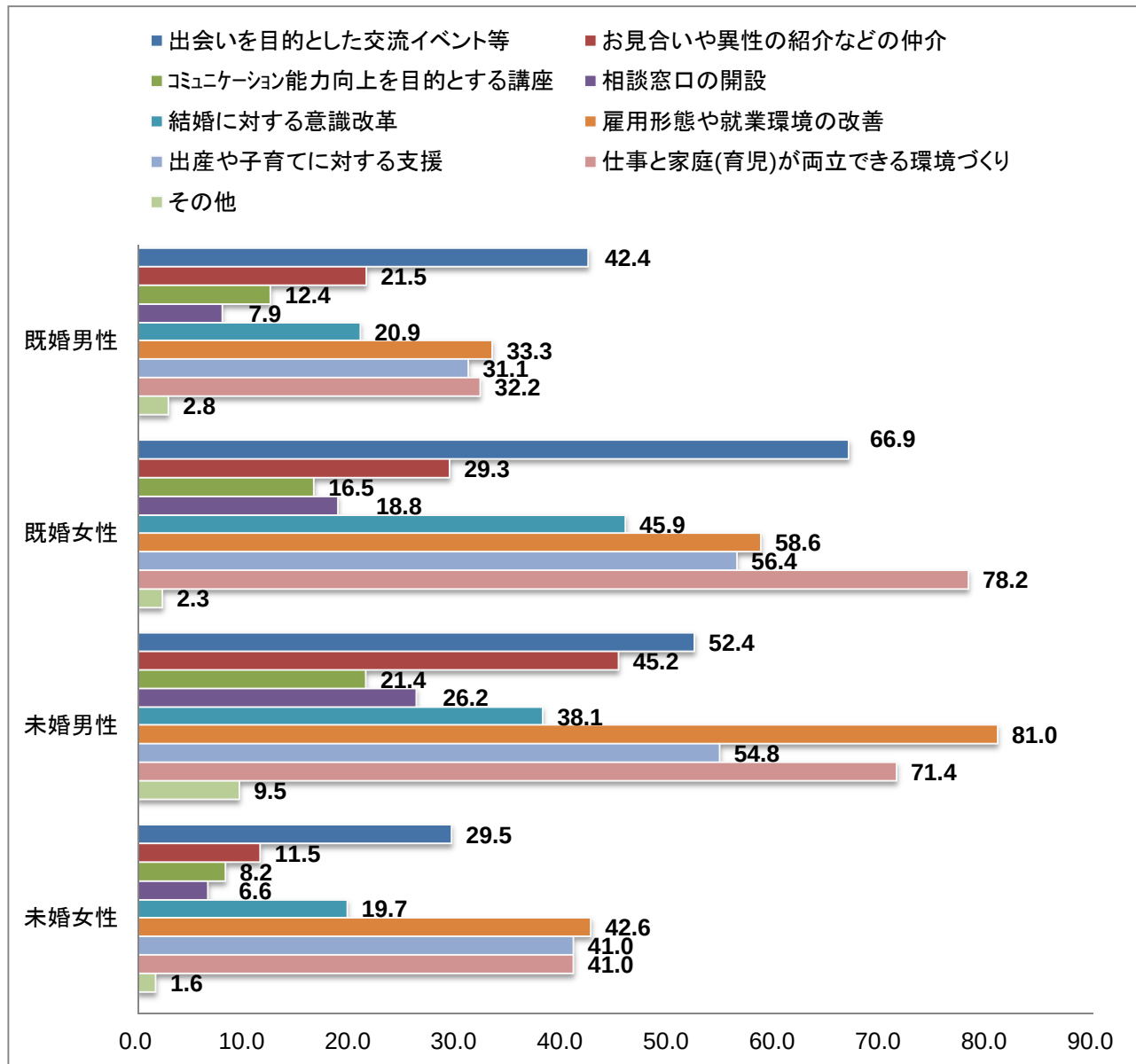
〔参考〕第 6 次総合計画成果指標と実績値

成果指標	基準値	実績値 (H24)	目標値 (H27)
インターネット人口普及率	53.9%	50.4%	60.0%

10 結婚支援について

設問⑪-1 未婚化・晩婚化が進んでいますが、結婚を支援するためどんなことが必要だと思いますか（複数回答可）。

①男女別（既婚未婚別）



②分析結果

性別・未既婚・年齢を問わず、「雇用形態や就業環境の改善」「出産や子育てに対する支援」「仕事と家庭（育児）が両立できる環境づくり」が高い数値を示しています。

未婚者の意識を見ると、「出会いを目的とした交流イベント等」を男性の約 52%、女性の約 30% が選択しているほか、未婚者の 30 代～50 代で「お見合いや異性の紹介などの仲介」を選択する数値が高くなっています。

また、「結婚に対する意識改革」を選択した回答者が男性 38%、女性 20%と比較的高いことから、結婚の肯定的なイメージを広げるような対策も求められています。

設問⑪-2 結婚に対する支援のうち、市（行政）に望むものは何ですか（自由記述）。

①分析結果

結婚に対する支援のうち、市（行政）に望むものを自由記述で伺ったところ、既婚者から 90 件（311 人中）、未婚者から 23 件（103 人中）の回答を得ました。

安定した職場や雇用環境を望む意見が 37 件と最も多く、次いで若年層を中心に住居手当や結婚祝金など経済的な援助を望む意見が 18 件と、経済・雇用環境の充実を望む意見が半数ありました。

これらを除いた支援策としては、交流イベントなど出会いの機会・きっかけ提供を望む意見が 22 件と最も多く、次いで相談窓口の開設を望む意見が多くありました。

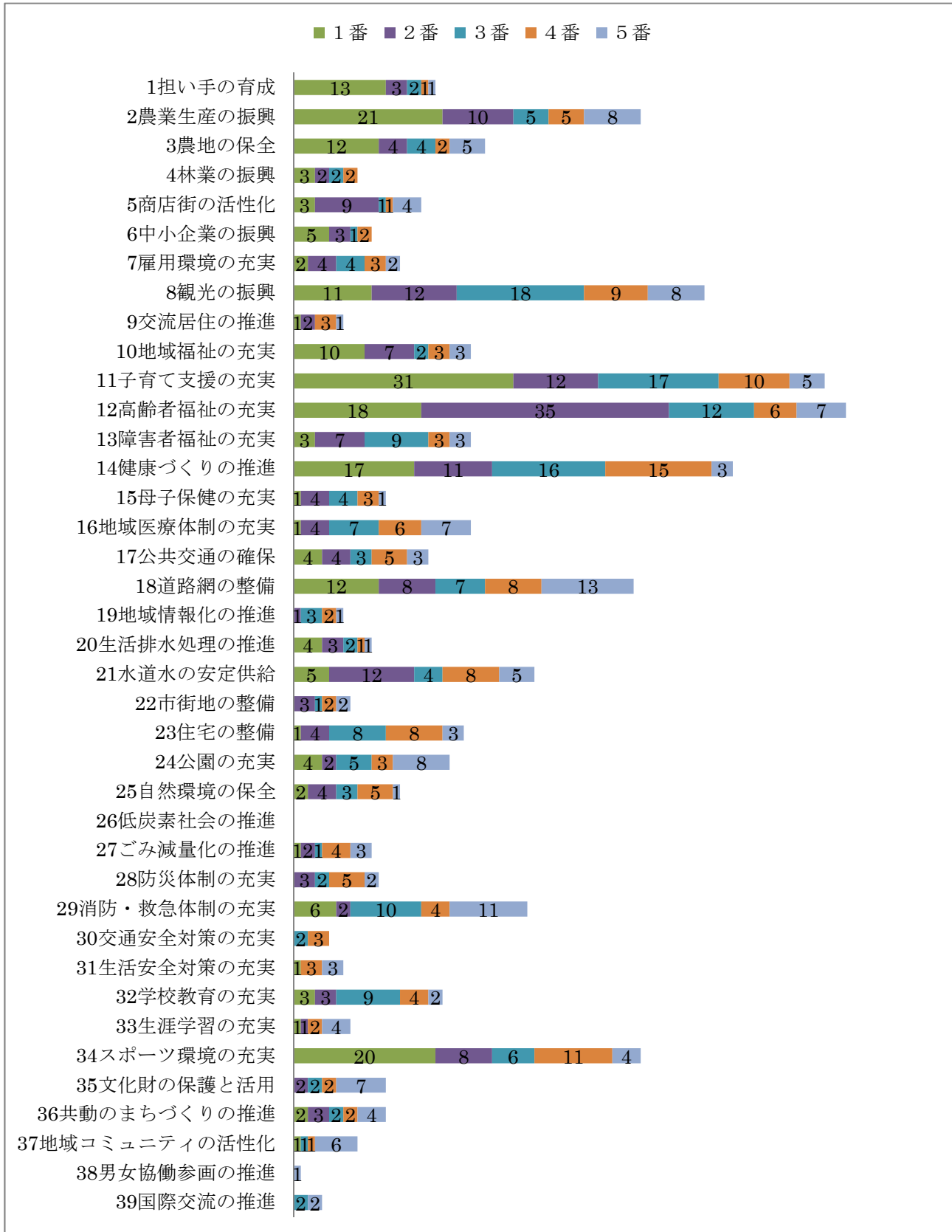
また、既婚者からは、出産・育児の支援、結婚に対する意識改革を望む意見があるなど、全体として設問⑪-1 と同じような結果となりました。

11 市の施策について

設問⑫-1 市が進めている取り組みの中で、効果が得られていると感じるものを下表の39項目から順に5つ選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



No.	順位	施策	1 番	2 番	3 番	4 番	5 番	計
12	1	高齢者福祉の充実	18	35	12	6	7	78
11	2	子育て支援の充実	31	12	17	10	5	75
14	3	健康づくりの推進	17	11	16	15	3	62
8	4	観光の振興	11	12	18	9	8	58
2	5	農業生産の振興	21	10	5	5	8	49
34	5	スポーツ環境の充実	20	8	6	11	4	49
18	7	道路網の整備	12	8	7	8	13	48
21	8	水道水の安定供給	5	12	4	8	5	34
29	9	消防・救急体制の充実	6	2	10	4	11	33
3	10	農地の保全	12	4	4	2	5	27
10	11	地域福祉の充実	10	7	2	3	3	25
13	11	障害者福祉の充実	3	7	9	3	3	25
16	11	地域医療体制の充実	1	4	7	6	7	25
23	14	住宅の整備	1	4	8	8	3	24
24	15	公園の充実	4	2	5	3	8	22
32	16	学校教育の充実	3	3	9	4	2	21
1	17	担い手の育成	13	3	2	1	1	20
17	18	公共交通の確保	4	4	3	5	3	19
5	19	商店街の活性化	3	9	1	1	4	18
7	20	雇用環境の充実	2	4	4	3	1	15
25	20	自然環境の保全	2	4	3	5	1	15
15	22	母子保健の充実	1	4	4	3	1	13
35	22	文化財の保護と活用	0	2	2	2	7	13
36	22	共働きのまちづくりの推進	2	3	1	2	4	13
28	25	防災体制の充実	0	3	2	5	2	12
6	26	中小企業の振興	5	3	1	2	0	11
20	26	生活排水処理の推進	4	3	2	1	1	11
27	26	ごみ減量化の推進	1	2	1	4	3	11
4	29	林業の振興	3	2	2	2	0	9
37	29	地域コミュニティの活性化	1	0	1	1	6	9
22	31	市街地の整備	0	3	1	2	2	8
33	31	生涯学習の充実	1	1	0	2	4	8
9	33	交流居住の推進	1	2	0	3	1	7
19	33	地域情報化の推進	0	1	3	2	1	7
31	33	生活安全対策の充実	1	0	0	3	3	7
30	36	交通安全対策の充実	0	0	2	3	0	5
39	37	国際交流の推進	0	0	2	0	2	4
38	38	男女協働参画の推進	0	0	0	0	1	1
26	39	低炭素社会の推進	0	0	0	0	0	0

②分析結果

効果が得られていると感じる施策として、最も多くの人を選択されたのは「高齢者福祉の充実」で 78 名の回答者が選択しています。民間事業者による施設整備が進んだことによって、施設の充足感のほか老後への不安が少なくなったなどの意見がありました。

2 番目に多く選択されたのは、「子育て支援の充実」で 75 名の回答者が選択しています。保育園をはじめ、子育て支援センターや児童クラブなど施設環境の充実のほか、マル福の制度拡大など経済的支援に対し評価されています。

3 番目に多く選択されたのは「健康づくりの推進」で、各種検診への積極的な周知啓発と受診勧奨に対する評価のほか、健康ポイント事業など健康づくりへの取り組みに評価がありました。

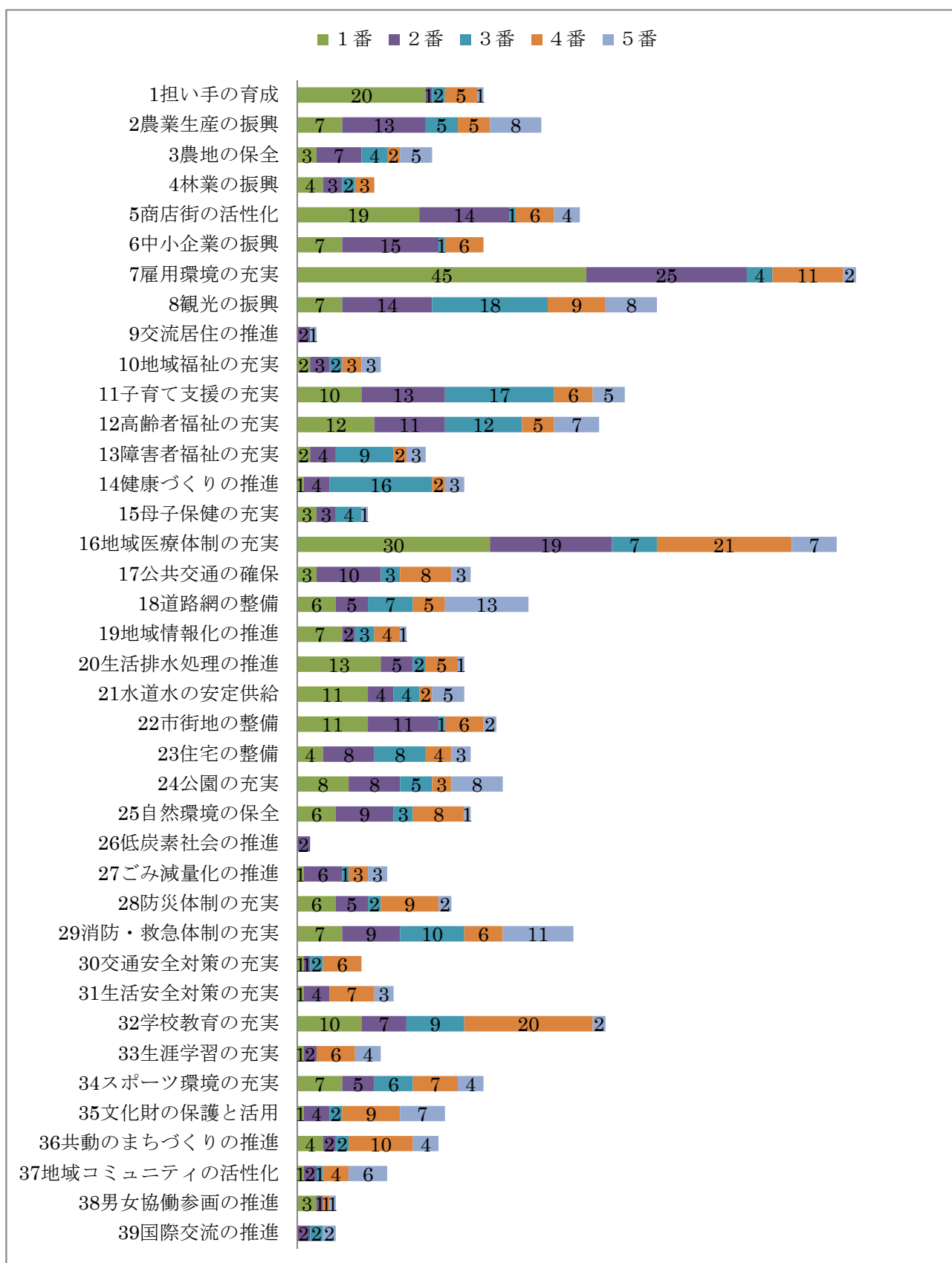
4 番目の「観光の振興」では、フェイスブックや観光イメージキャラクター「たんぽ小町ちゃん」などを活用した情報発信のほか、昨年取り組みを始めた「でんぱく」が評価を得ています。

5 番目には「スポーツ環境の充実」と「農業生産の振興」が選択されました。「スポーツ環境の充実」では、総合運動公園などの施設整備に加え、その施設を利用した全国規模の大会や合宿の誘致が評価されています。「農業生産の振興」では、「北限のもも」などのブランド化が進んでいることや「そば」の作付が進んでいることなどが評価されています。

設問⑫-2 市が進めている取り組みの中で、もっと「力」を入れて欲しいと感じるものを下表の39項目から順に**5つ**選んでください。

①全体／男女別（項目別選択割合／複数回答）

〔単位：点〕



No.	順位	施策	1番	2番	3番	4番	5番	計
7	1	雇用環境の充実	45	25	4	11	2	87
16	2	地域医療体制の充実	30	19	7	21	7	84
8	3	観光の振興	7	14	18	9	8	56
11	4	子育て支援の充実	10	13	17	6	5	51
32	5	学校教育の充実	10	7	9	20	2	48
12	6	高齢者福祉の充実	12	11	12	5	7	47
5	7	商店街の活性化	19	14	1	6	4	44
29	8	消防・救急体制の充実	7	9	10	6	11	43
2	9	農業生産の振興	7	13	5	5	8	38
18	10	道路網の整備	6	5	7	5	13	36
24	11	公園の充実	8	8	5	3	8	32
22	12	市街地の整備	11	11	1	6	2	31
1	13	担い手の育成	20	1	2	5	1	29
6	13	中小企業の振興	7	15	1	6	1	29
34	13	スポーツ環境の充実	7	5	6	7	4	29
17	16	公共交通の確保	3	10	3	8	3	27
23	16	住宅の整備	4	8	8	4	3	27
25	16	自然環境の保全	6	9	3	8	1	27
14	19	健康づくりの推進	1	4	16	2	3	26
20	19	生活排水処理の推進	13	5	2	5	1	26
21	19	水道水の安定供給	11	4	4	2	5	26
28	22	防災体制の充実	6	5	2	9	2	24
35	23	文化財の保護と活用	1	4	2	9	7	23
36	24	共働きのまちづくりの推進	4	2	2	10	4	22
3	25	農地の保全	3	7	4	2	5	21
13	26	障害者福祉の充実	2	4	9	2	3	20
19	27	地域情報化の推進	7	2	3	4	1	17
31	28	生活安全対策の充実	1	4	0	7	3	15
27	29	ごみ減量化の推進	1	6	1	3	3	14
37	29	地域コミュニティの活性化	1	2	1	4	6	14
10	31	地域福祉の充実	2	3	2	3	3	13
33	31	生涯学習の充実	1	2	0	6	4	13
4	33	林業の振興	4	3	2	3	0	12
15	34	母子保健の充実	3	3	4	0	1	11
30	35	交通安全対策の充実	1	1	2	6	0	10
38	36	男女協働参画の推進	3	1	0	1	1	6
39	36	国際交流の推進	0	2	2	0	2	6
9	38	交流居住の推進	0	2	0	0	1	3
26	39	低炭素社会の推進	0	2	0	0	0	2

②分析結果

もっと力を入れて欲しいと感じる施策として、最も多くの人に選択されたのは「雇用環境の充実」で、87名の回答者が選択しています。人口減少の歯止め対策のほか、活気あるまちづくりのために雇用の場の確保が必要であるとする意見が多くありました。

2番目に多く選択されたのは「地域医療体制の充実」で、84名の回答者が選択しています。医師不足による診療科の休診や診療日が少ないことへの不満のほか、開業医が少ないことへの意見が見られます。

3番目に多く選択されたのは「観光の振興」で、56名の回答者が選択しました。観光資源をいかし切れていないことに対する不満やPR不足だとする意見が多くありました。

4番目の「子育て支援の充実」では、少子化の流れを食い止めるために更なる支援の充実を求める意見が多く、特に経済的な支援に対し要望がありました。

5番目は「学校教育の充実」で、将来を担う子供たちの育成に力を入れるべきとの意見が多くあり、特に英語教育に力を入れて欲しいという意見がありました。また、少子化による1学年当たりの児童数の減少に対し、学校の統廃合を行うべきとの意見がありました。

12 自由意見

設問⑬では自由意見として、65 名の方から意見や感想などをいただきました。

これらを施策別にとすると下表のとおりです。

いただいた意見については、庁内においてその内容をよく考察し、今後の施策推進に役立ててまいります。

施策		件数	施策		件数
1-1-1	担い手の育成	－	3-2-3	水道水の安定供給	－
1-1-2	農業生産の振興	2	3-2-4	市街地の整備	－
1-1-3	農地の保全	1	3-2-5	住宅の整備	－
1-1-4	林業の振興	2	3-2-6	公園の充実	1
1-2-1	商店街の活性化	2	3-3-1	自然環境の保全	－
1-2-2	中小企業の振興	－	3-3-2	低炭素社会の推進	－
1-2-3	雇用環境の充実	3	3-3-3	ごみ減量化の推進	2
1-3-1	観光の振興	5	3-4-1	防災体制の充実	－
1-3-2	交流居住の推進	－	3-4-2	消防・救急体制の充実	－
2-1-1	地域福祉の充実	2	3-4-3	交通安全対策の充実	1
2-1-2	子育て支援の充実	2	3-4-4	防犯・消費者保護の充実	－
2-1-3	高齢者福祉の充実	9	4-1-1	学校教育の充実	－
2-1-4	障害者福祉の充実	1	4-2-1	生涯学習の充実	6
2-2-1	健康づくりの推進	1	4-2-2	スポーツ環境の充実	4
2-2-2	母子保健の充実	1	4-2-3	文化財の保護と活用	1
2-2-3	地域医療体制の充実	4	5-1-1	共働きのまちづくりの推進	1
3-1-1	公共交通の確保	1	5-1-2	地域コミュニティの活性化	1
3-1-2	道路網の整備	4	5-1-3	男女協働参画の推進	－
3-2-1	地域情報化の推進	－	5-1-4	国際交流の推進	－
3-2-2	生活排水処理の推進	1	その他		33
合 計					91